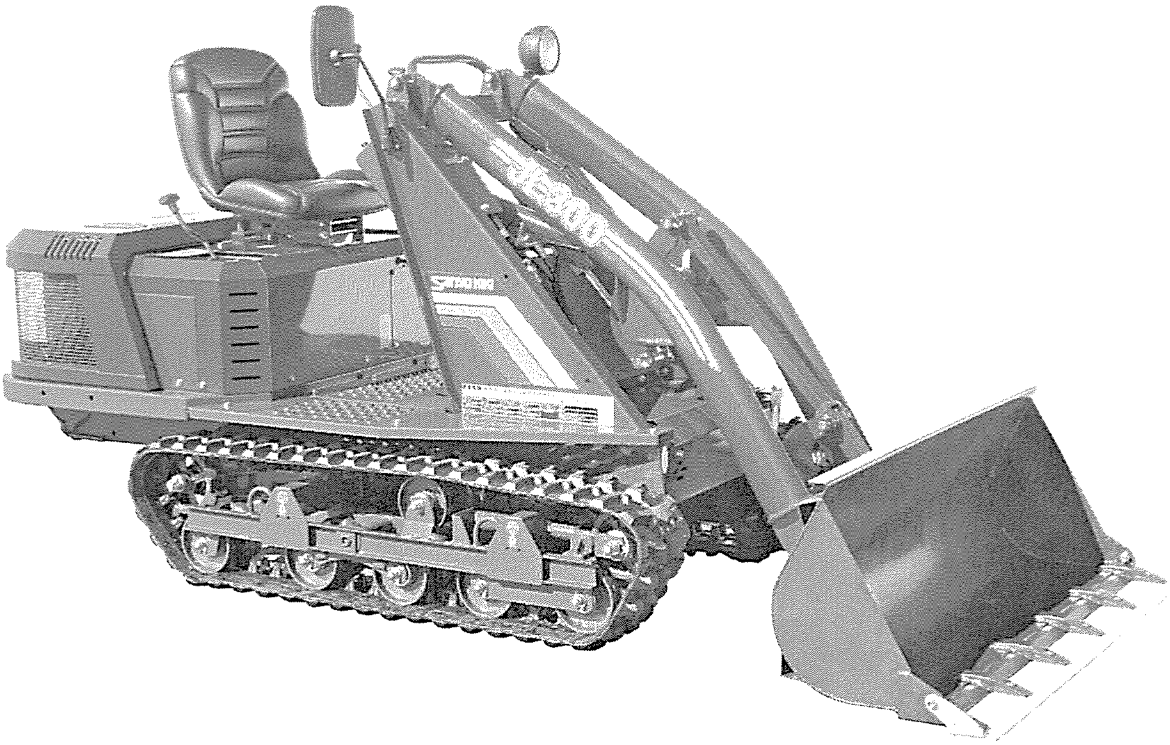
SANYO KIKI

乗用ローダ

取扱説明書

JL300



文書コード：T37039000－2

⚠ ご使用前に必ずお読みください。
いつまでも大切に保管してください。

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

- 本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
- 本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- 本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

⚠ 警　告

- 本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- スノーパターンのクローラは、雪道専用になっています。除雪以外の用途には使用しないでください。
- 本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。
- 本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意味
⚠ 危険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示にしたがわないと 死亡もしくは、重症を負う場合に使用されます。
⚠ 警告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと 死亡もしくは、重症を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと 中・軽症を負う可能性のある場合に使用されます。 また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

リース（レンタル）業者の皆様へ

⚠ 注意

- 本製品を他の事業者または個人に貸し出す際には、取り扱い方法を明確に説明し、使用の前に本書を必ず読むよう指導してください。

保証とアフターサービスについて

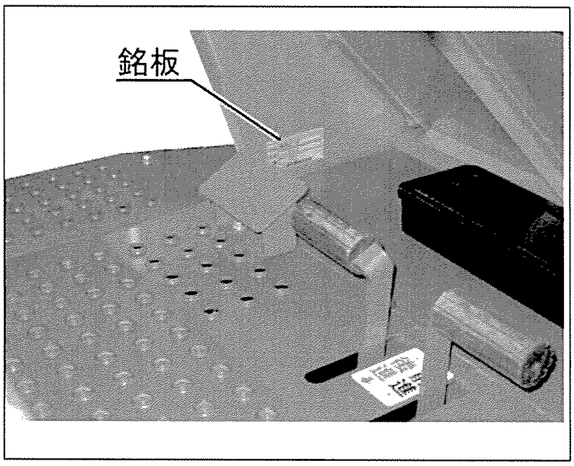
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。
詳しくは同梱の保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の「本製品の仕様」を参照してください。（☞15ページ）

銘板位置



銘板

補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後6年とします。

目　次

1．安全に関する注意事項 ・・・ 1

本製品に添付してある警告ラベルについて ・・・ 1
安全運転・作業のための心得 ・・・ 2
- 運転前の心得 ・・・ 2
- 運転時の心得 ・・・ 4
- 積載時の心得 ・・・ 7
- ローダ操作時の心得 ・・・ 8
- 駐車時の心得 ・・・ 11
- 整備時の心得 ・・・ 11

2．各部の名称とはたらき ・・・ 13

各部の名称とはたらき ・・・ 13

3．製品仕様 ・・・ 15

本製品の仕様 ・・・ 15
付属品明細 ・・・ 16

4．運転と操作 ・・・ 17

運転前の準備 ・・・ 17
- 始業点検 ・・・ 17
- 燃料の点検と補給 ・・・ 17
- シートの調節 ・・・ 18

運転のしかた ・・・ 19
- 始動のしかた ・・・ 19
- 運転のしかた ・・・ 21
- 停止のしかた ・・・ 23
- 駐車のしかた ・・・ 24

ローダ操作のしかた ・・・ 25
- レバー位置とローダの動き ・・・ 25
- 単動・複動の切り換え ・・・ 26
- ストップバルブの操作 ・・・ 27
- 先端アタッチメント取付け・取外しのしかた ・・・ 28

5．保守・お手入れ ・・・ 29

定期点検表 ・・・ 29
- エンジンの点検 ・・・ 29
- 車両の点検 ・・・ 30

給油・給水一覧表 ・・・ 33
給脂・注油一覧表 ・・・ 33

消耗部品（交換部品）一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
エンジン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
エンジンオイルの点検・補給・交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
エアクリーナの清掃・交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
点火プラグの点検・清掃・交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
フューエルコックの清掃 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
油圧系統 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
油圧作動油の点検・補給・交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
油圧Ｖベルトの点検・調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
走行装置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
クローラの調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
トランスミッションオイルの交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
走行Ｖベルトの点検・調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
ＨＳＴの中立調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
駐車ブレーキの点検・調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
電装品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
バッテリ液の点検・補給・充電 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
ヒューズの点検・交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
使用後のお手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
通常使用後のお手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
寒冷期使用後のお手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
長期保管のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

6. 不具合発生時の処置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

不具合診断表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

7. 本製品の移送 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

トラックへの積み降ろし要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
クレーン等による吊り上げ要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

付録

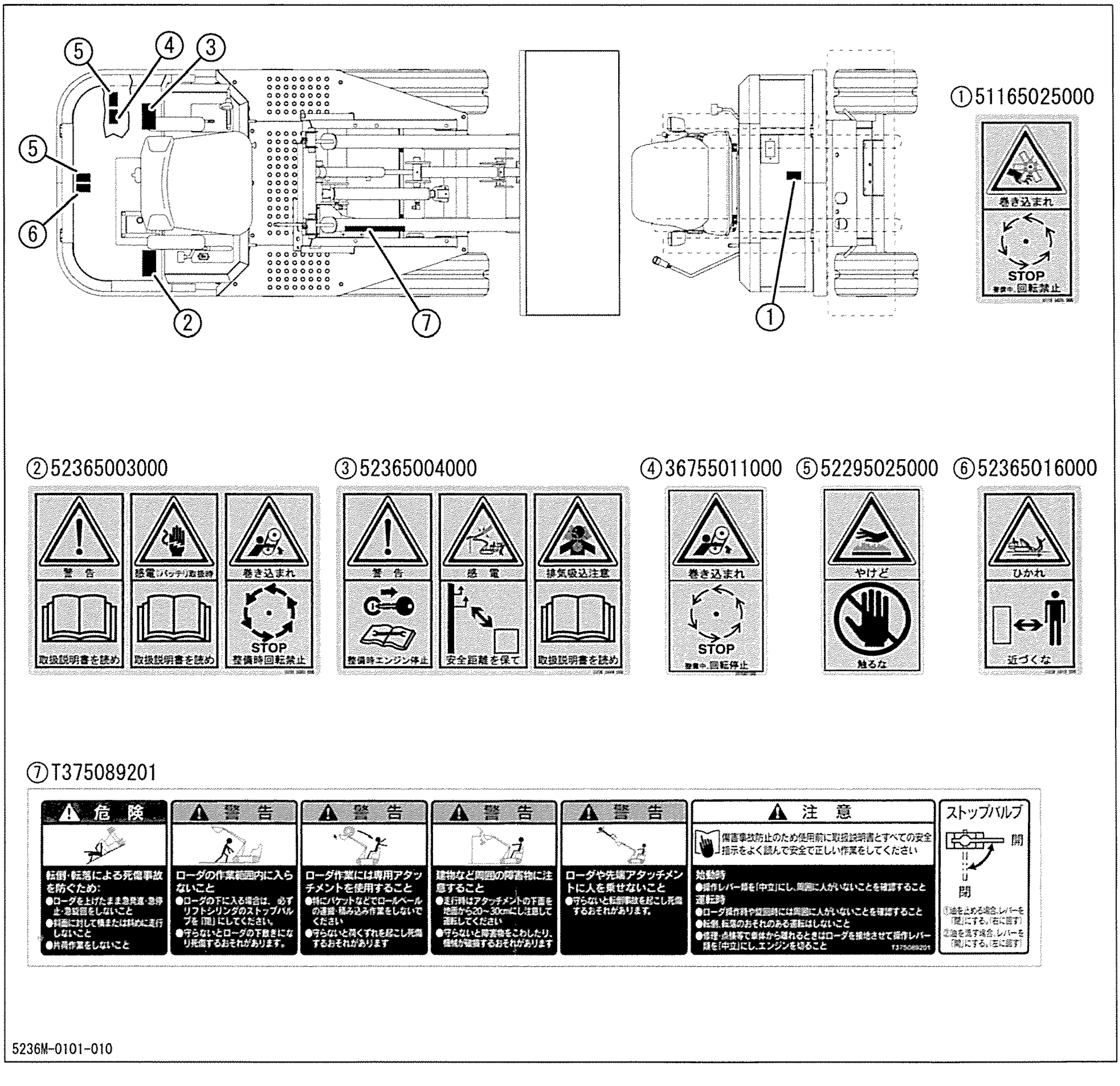
・エンジン取扱説明書
※本書とあわせて必ずお読みください。

1. 安全に関する注意事項

本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

- 警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。
- 警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。
- 警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。

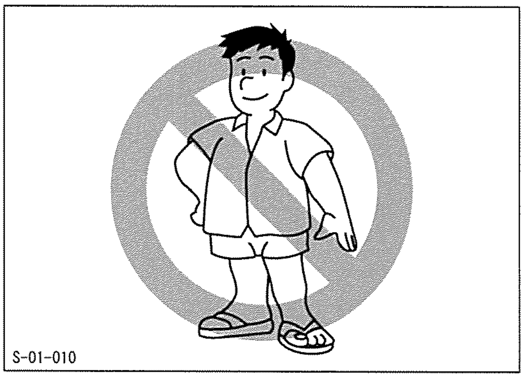


1． 安全に関する注意事項

安全運転・作業のための心得

運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転・安全作業を心がけてください。

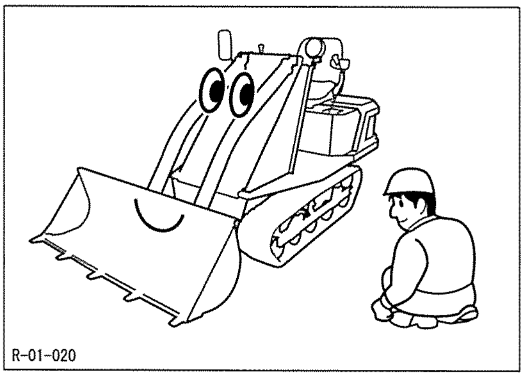
運転前の心得



S-01-010

正しい服装と保護具の着用

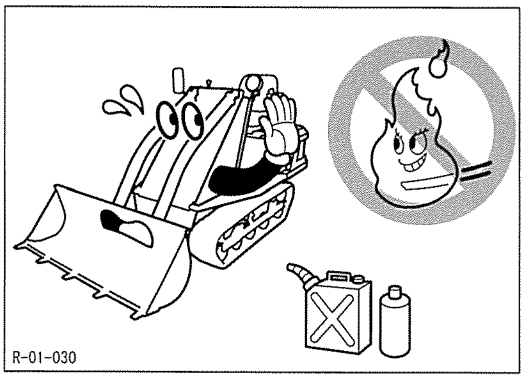
運転・作業にふさわしい服装を着用し、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



R-01-020

始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。

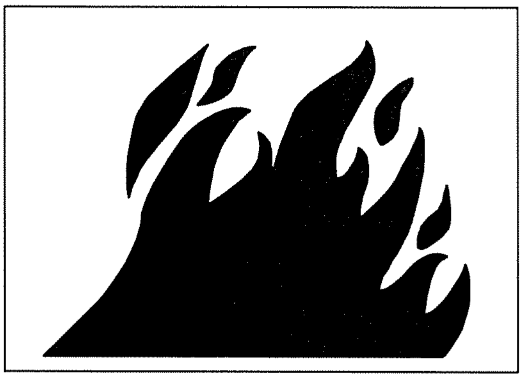


R-01-030

火気厳禁

燃料・油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。

１．安全に関する注意事項

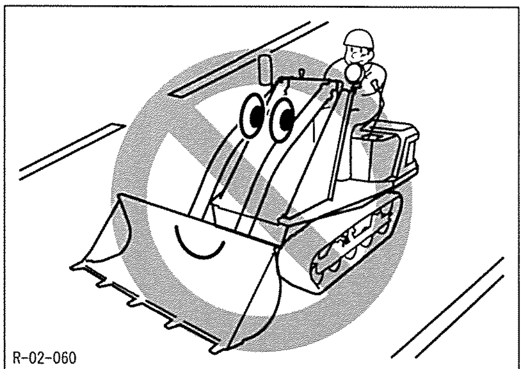


排気管の熱や排気ガスにより可燃物が着火し、火災につながるおそれがあります

- 排気管やエンジン周辺部のゴミは常に清掃しておく
- エンジン始動前には、車両後方や排気管の周りに可燃物が無いことを確認する
- 枯れ草やワラ等、燃えやすいものの上を走行しない
- 可燃物付近に駐車しない
- 車両の後方に可燃物があるときは、車両後端を 30 cm以上離して駐車する

1．安全に関する注意事項

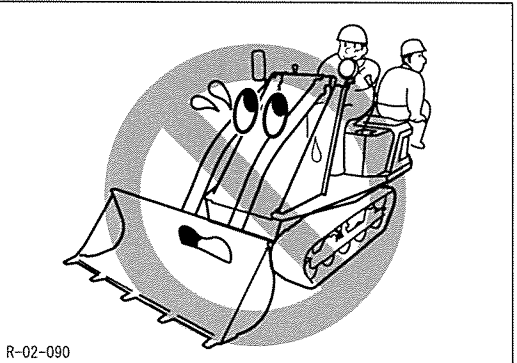
運転時の心得



R-02-060

公道乗車禁止

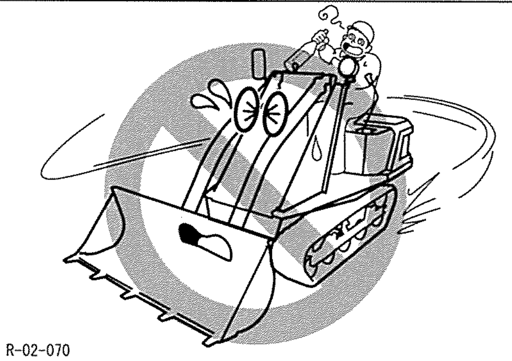
本製品は公道および公道とみなされる道路での運転はできません。



R-02-090

同乗禁止

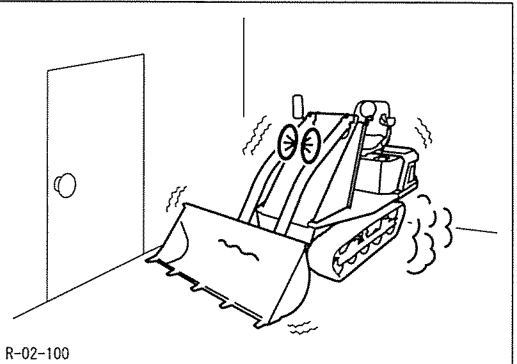
本製品は一人乗りです。運転者以外は乗せないでください。また、絶対に作業機（ローダ等）に人を乗せて走行や作業を行わないでください。



R-02-070

無謀運転禁止

飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

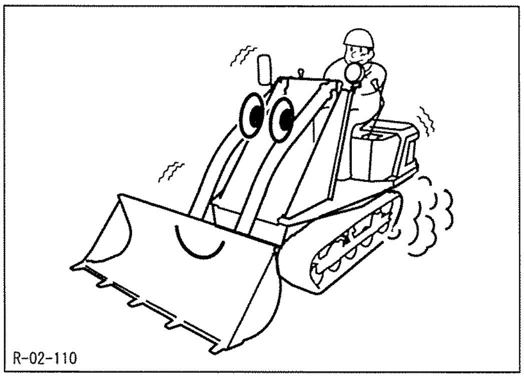


R-02-100

換気の悪い場所での始動・運転禁止

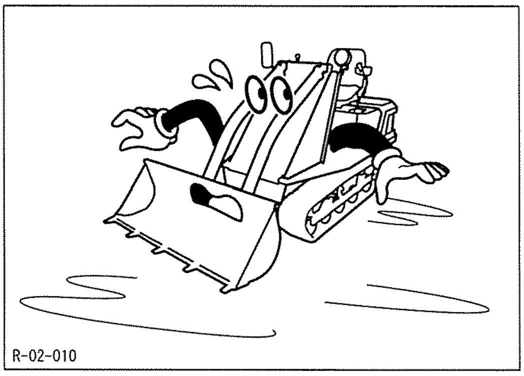
エンジンの始動・運転は必ず換気のよい場所で行ってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。

1．安全に関する注意事項



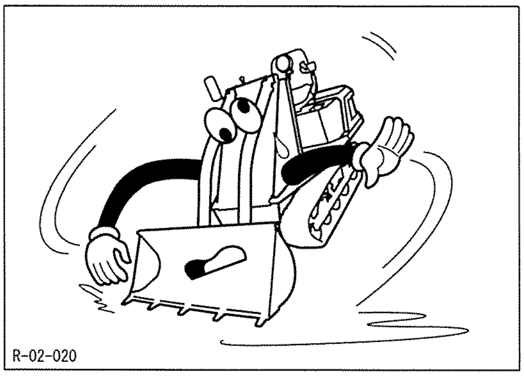
始動は乗車して行う

始動は必ず乗車して行ってください。降車状態での始動は万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。



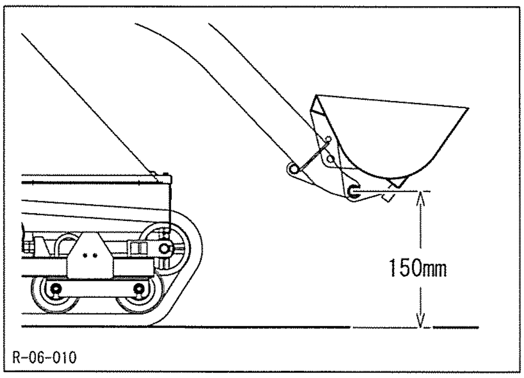
安全速度遵守

発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。



急発進・急加速・急旋回・急停止の禁止

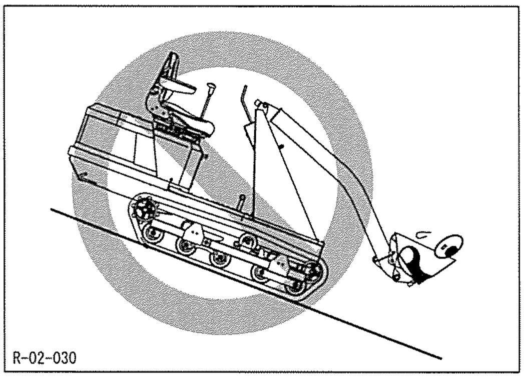
急発進・急加速・急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。



走行時の注意

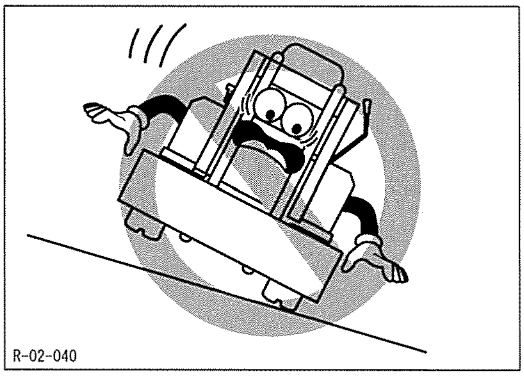
走行姿勢時のバケット高さは、バケットヒンジピン中心と地面からの高さが 150 mm程度とし、バケットを最大スクイさせて走行してください。
バケット高さが高い状態で走行すると前方視界の不良や転倒の恐れがあります。またバケット高さが低い状態で走行すると、バケットを地面に引きずり、故障や破損の恐れがあります。

1．安全に関する注意事項



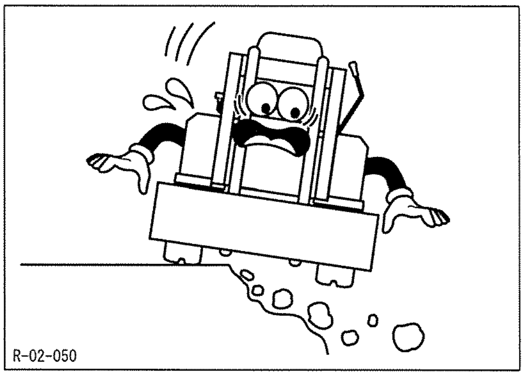
傾斜地での注意

傾斜地では最高速度の 1/2 以下の低速で走行してください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。またエンジンなどがオーバーランをする恐れがあります。



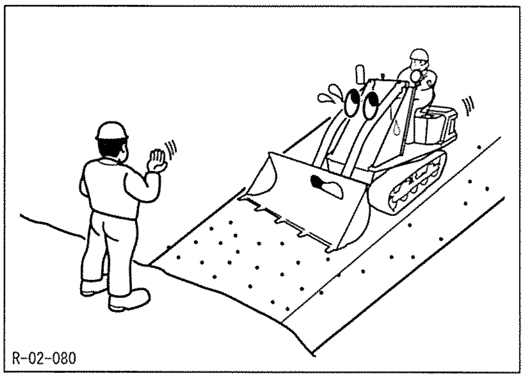
斜面の横断・旋回禁止

斜面を横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。また、斜面では旋回しないでください。車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。



路肩の崩れに注意

溝や土手の端は走行しないでください。路肩が崩れるおそれがあります。特に降雨後や地震後は注意してください。

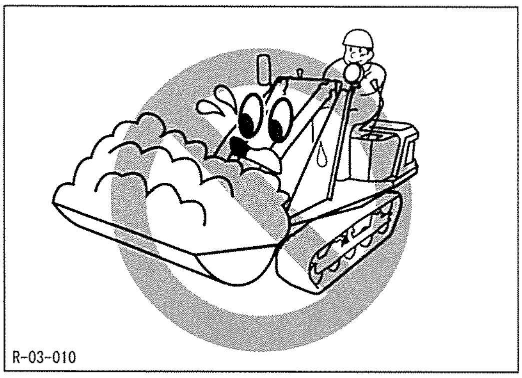


危険な場所では誘導者の指示に従う

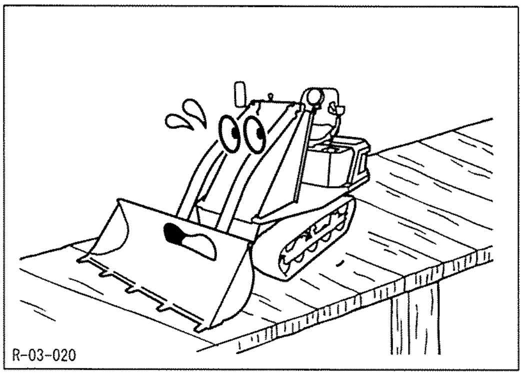
見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

1．安全に関する注意事項

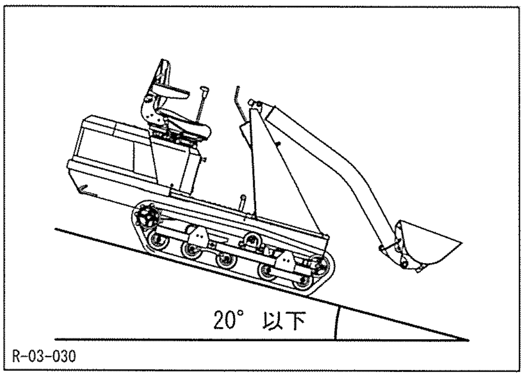
積載時の心得



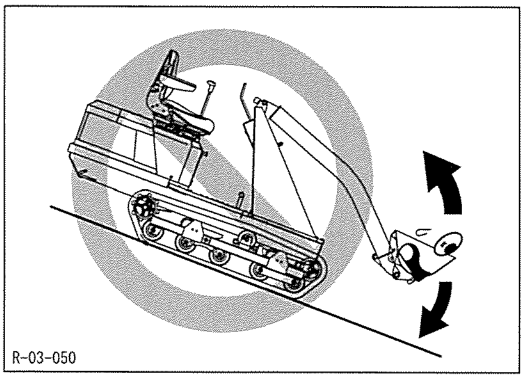
過積載禁止
本製品の最大持ち上げ荷重を超える作業はしないでください。また、偏荷重にならないよう、積荷は均等に積んでください。



制限重量に注意
木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



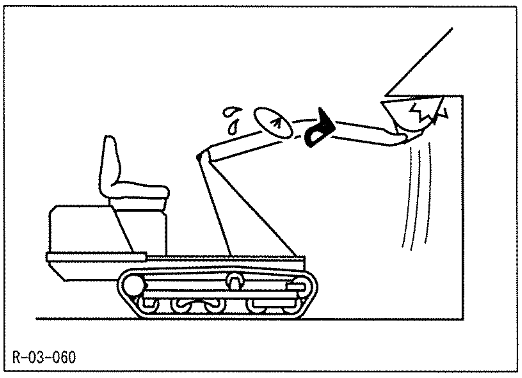
傾斜地での積荷に注意
10°～20°の傾斜地では、空荷で走行してください。20°を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。



傾斜地でのローダ操作禁止
傾斜地でのローダ操作は行わないでください。車両が転倒するおそれがあります。

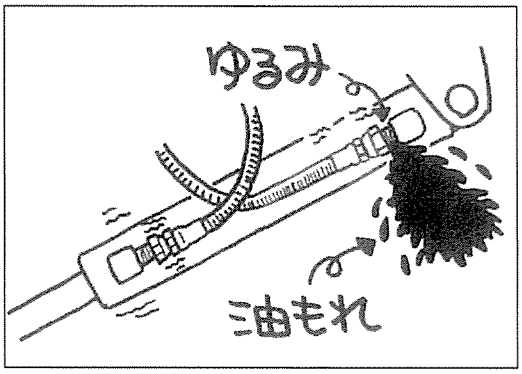
1. 安全に関する注意事項

ローダ操作時の心得



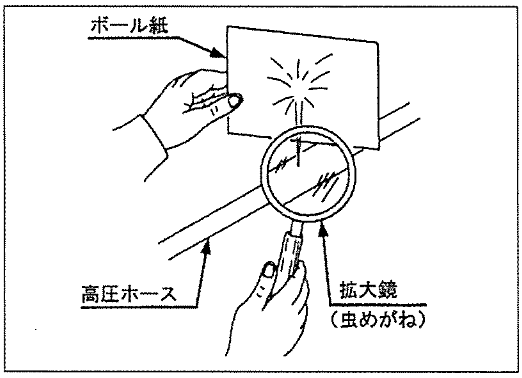
建物など周囲の障害物に注意

アームを動かしたり、機械を方向転換させるときは、ローダが障害物に当たらないようにしてください。



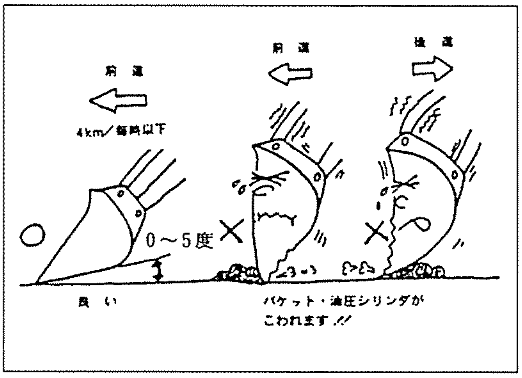
作業する前に油圧配管のネジ部を確実に締める

安全のため、油圧ホースは２年毎に交換してください。



高圧油に注意

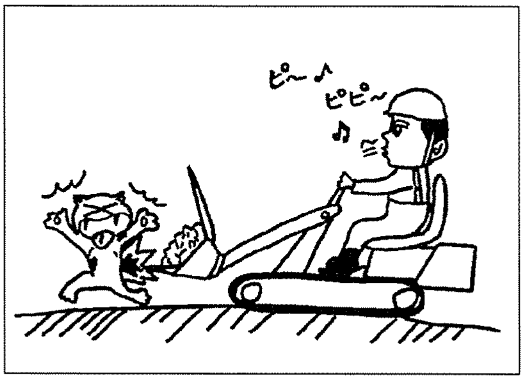
作業中、ホースや油圧部品から油が噴出した場合は、すぐにエンジンを停止し、ローダを接地させ、油圧回路内の残圧を必ず抜いてください。見えない小さな穴からの油漏れを探すときは保護めがねをかけ、ボール紙などを利用してください。



バケット底面と地面のなす角度は５°以下で使う

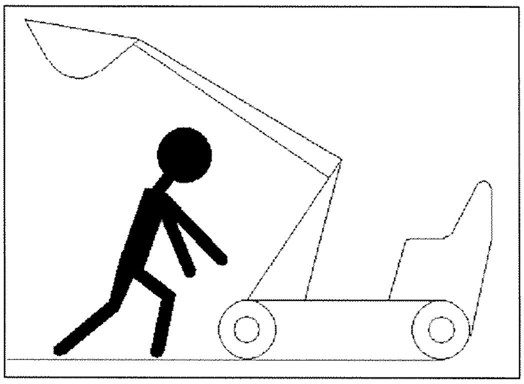
バケットやシリンダ・ホースなどに無理な力がかかり、破損するおそれがあります。

1．安全に関する注意事項



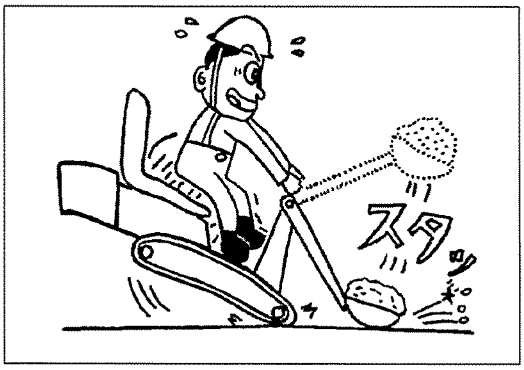
製品の改造禁止

機械の破損や故障につながるので、純正部品以外のアタッチメントまたは指定以外のアタッチメントを使用しないでください。



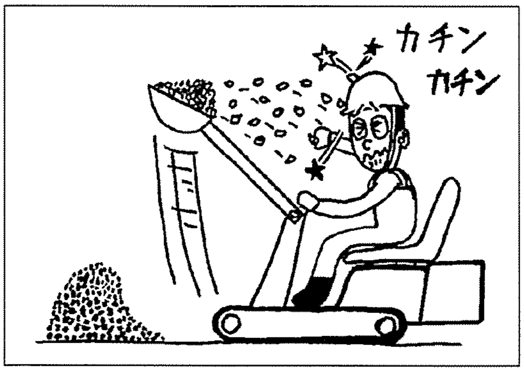
ローダ作業範囲に注意

ローダに当たったり、ローダの下敷きになるおそれがあります。ローダの作業範囲内に人を近づけないでください。



積荷状態の操作に注意

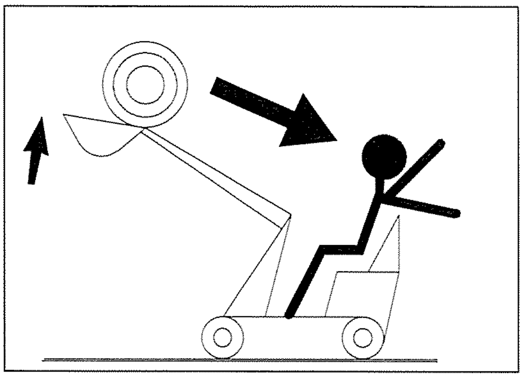
積荷状態でアームを下降途中で急停止させたり、積荷走行中に急ブレーキをかけるとバランスを崩し転倒するおそれがあります。積荷状態での下降急停止・急ブレーキはしないでください。



積荷の上げすぎに注意

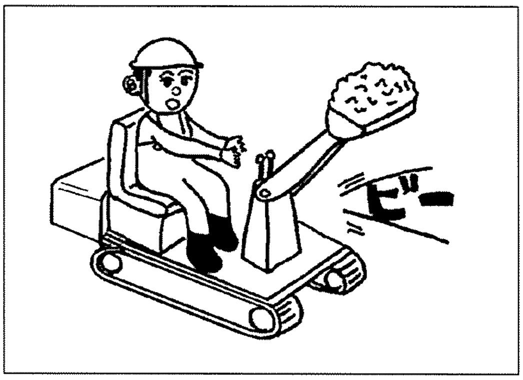
運転者に積荷が飛び散るおそれがあります。必要以上に積荷を持ち上げないでください。

１．安全に関する注意事項



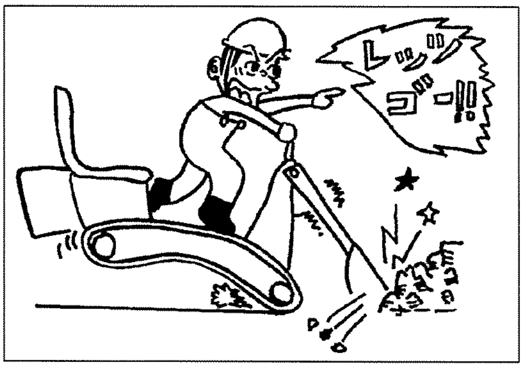
作業には専用アタッチメントを使用する

荷くずれや積荷の落下のおそれがあります。特にバケットでロールベールの運搬・積み込み作業をしないでください。



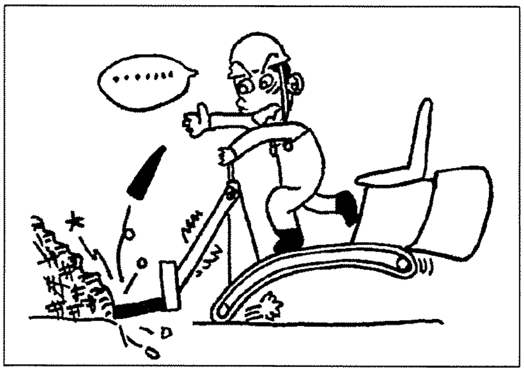
ローダや機械が「ビー」と鳴るときは停止する

シリンダが伸び（縮み）きった時や、荷を多く積み過ぎたときにはローダや機械からリリーフ弁の「ビー」という音がします。音が鳴るときは操作レバーを「停止（中立）」にもどしてください。



硬い土の掘り起こしに注意

バケットは簡易土木・土砂等の運搬用として作られています。硬い土や岩石等の掘削に使用しないでください。



マニアフォークやパレットフォークで土砂の掘起こし作業をしない

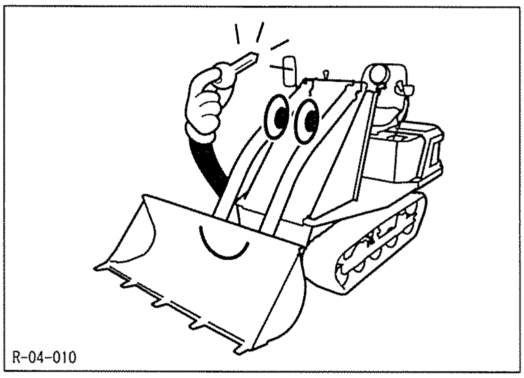
土砂の掘起こしは爪付バケットが適しています。マニアフォークやパレットフォークではタインやフォークが曲がったり折れたりする可能性がありますので掘起こし作業をしないでください。

スノーパターンクローラは除雪に使用する

スノーパターンクローラは除雪を想定しています。他の作業を行うとクローラの耳切れや脱輪が起こりやすくなります。

1．安全に関する注意事項

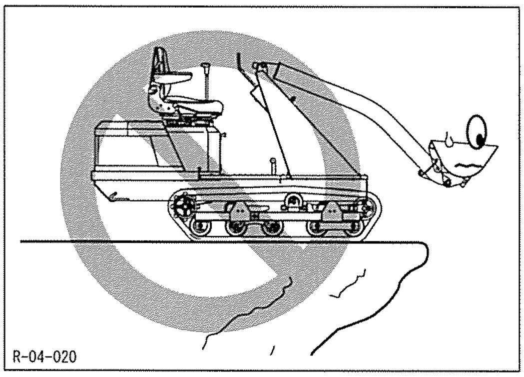
駐車時の心得



R-04-010

駐車時の安全確認

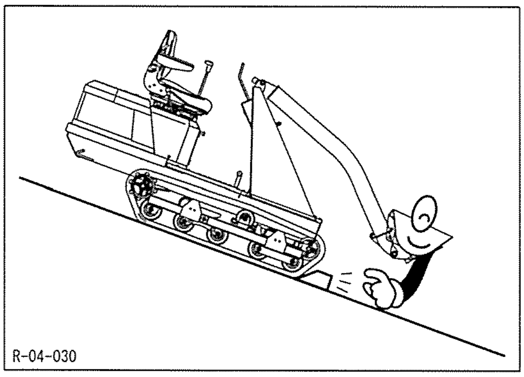
駐車時または機械を離れる時は、必ずローダを接地させてクラッチ・ブレーキレバーを［ 停止 ］位置にし、キーを抜き取ってください。



R-04-020

危険な場所での駐停車禁止

駐停車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。

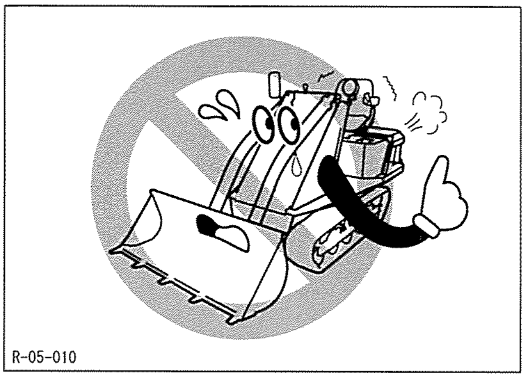


R-04-030

傾斜地での輪止め励行

傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。

整備時の心得

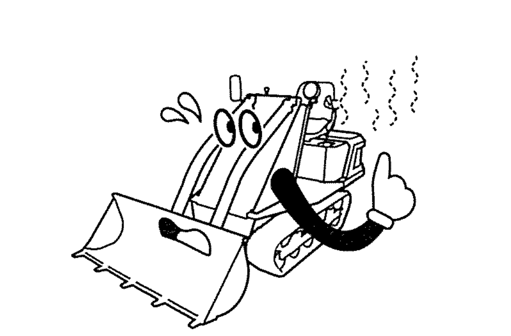


R-05-010

点検・整備時エンジン停止

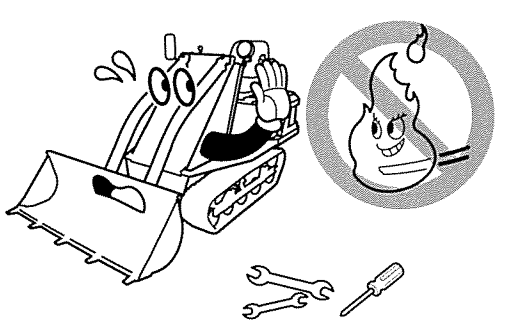
点検および整備時は必ずエンジンを停止してください。

1．安全に関する注意事項


R-05-020

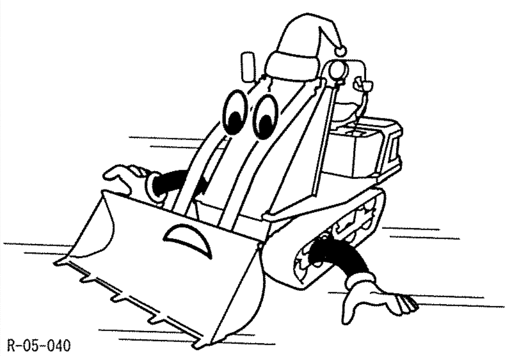
やけどに注意

エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。


R-05-030

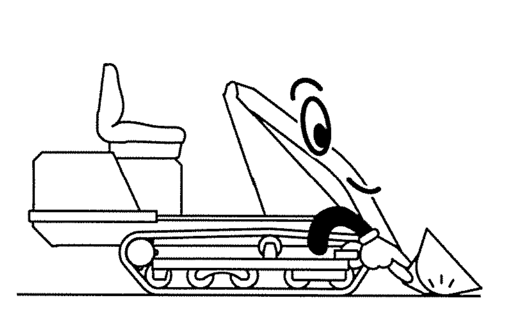
火気厳禁

エンジンの整備時やバッテリの充電時は、火気を近づけないでください。


R-05-040

凍結時は十分注意

凍結した滑り易い路面では作業しないでください。また、クローラが凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

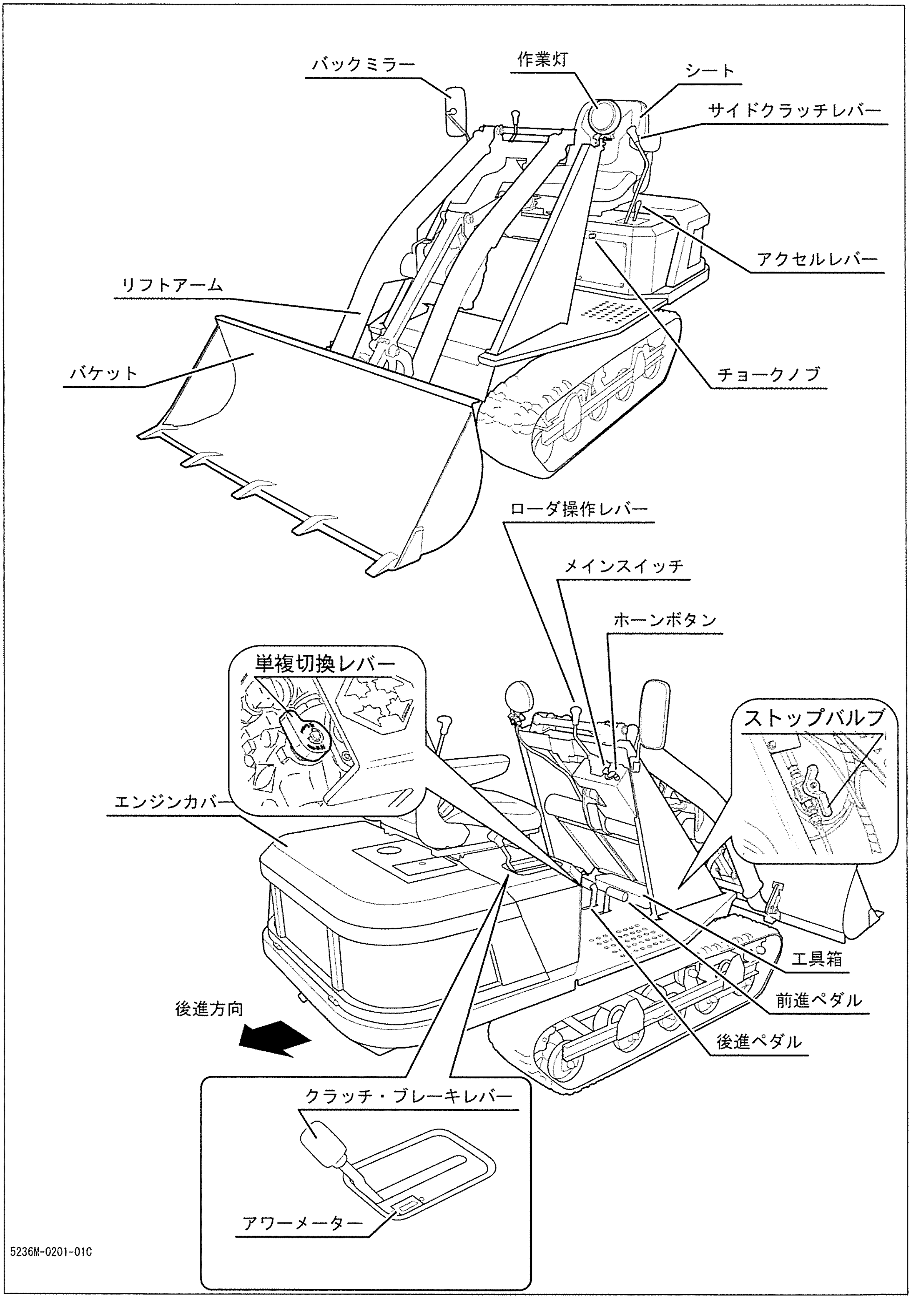

S-02-010

機械を離れる時

機械を離れる時は、先端アタッチメントおよびフォーク等の先端を接地させ、必ずエンジンを停止させてください。

２．各部の名称とはたらき

各部の名称とはたらき



2．各部の名称とはたらき

クラッチ・ブレーキレバー …………車両を走行状態または、駐車状態にするときに使用します。

アクセルレバー ………………………エンジン回転数の増減を行います。

メインスイッチ ………………………エンジンを始動、または停止するときに使用します。
（※クラッチ・ブレーキレバーが[停止]にないとエンジンは始動できません。）

チョークノブ …………………………エンジンを始動させるときに使用します。ノブを引くとチョークバルブが閉じ、ノブを戻すとチョークバルブが開きます。

ホーンボタン …………………………スイッチを押すとホーンが鳴ります。

アワーメーター ………………………累計稼働時間を０．１時間単位で示します。

前進ペダル ……………………………踏むと前進します。

後進ペダル ……………………………踏むと後進します。

作業灯 …………………………………作業時に前方を照らします。

サイドクラッチレバー ………………右旋回・左旋回します。

シート …………………………………運転者が座ります。

エンジンカバー ………………………整備・点検・給油等の時開けます。

工具箱 …………………………………工具・取扱説明書等を保管します。

バックミラー …………………………後方確認をします。

ローダ操作レバー ……………………アームの上昇・下降とバケットのスクイ・ダンプ操作をします。

リフトアーム …………………………バケットの上昇・下降をします。

バケット（先端アタッチメント）……荷物を積載します。作業によって適したアタッチメントに交換して使用します。

単複切換レバー ………………………除雪するときに使用します。単動に切換えるとバケットが地面に倣う操作ができます。

ストップバルブ ………………………リフトアームを固定するときに使用します。

3. 製品仕様

本製品の仕様

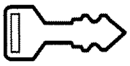
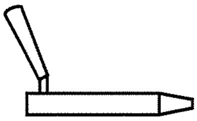
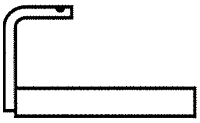
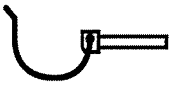
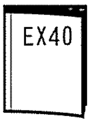
⚠ 注　意
● 本製品の仕様を理解したうえで、正しく使用してください。

名称・型式			JL300WB ローダ	JL300SWB ローダ
機械質量		kg	685	
最大持上げ荷重（注1）		kN (kgf)	2.94 (300)	
機械寸法	全長	mm	2660	
	全幅（バケット含む）	mm	1231	
	全高	mm	1400	
	クローラ接地長	mm	1050	
	クローラ中心距離	mm	840	
	最低地上高	mm	140	
ローダ寸法	バケット容量	m^3	0.12	
	バケット幅	mm	1231	
	ダンピングクリアランス	mm	1575	
	ダンピングリーチ	mm	620	
	バケットダンプ角度	度	54	
	バケットスクイ角度	度	40	
エンジン	名称		スバル EX40DS	
	型式		空冷４サイクルガソリン	
	シリンダ（内径×行程）	mm	89×65	
	総排気量	cm^3	404	
	最大出力	kW (PS) /rpm	8.6 (12.0) /3300	
	最大トルク	N·m (kg·m) /rpm	27 (2.75) /2400	
	始動方式		セルスタータ	
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン	
	燃料消費率	g/kW·h (g/PS·h)	400 (297)	
	燃料タンク容量	リットル	6.8	
	点火方式		無接点式マグネット点火	
	点火プラグ品番		NGK BR6HS	
電装	バッテリ形式		40B19R	
	バッテリ容量	V/Ah	12/28	
	作業灯	V/W	12/35	
走行性能	走行性能	km/h	0-4.5	
	最少回転半径	m	1.5	
	登坂能力	度	20	
	クローラパターン		ノーマルパターン	スノーパターン

※仕様は広幅バケット装着時の数値です
（注1）最大持ち上げ荷重は先端アタッチメント重量を含んだ荷重です。

3．製品仕様

付属品明細

No.	付属品内容	個数
1	取扱説明書	1
2	保証書	1
3	プラグレンチ	1
4	ハンドル	1
5	スペアキー 	1
6	アタッチ止めピンＡ 	2
7	アタッチ止めピンＢ 	1
8	パイプピン 	2
9	スナップピン	1
10	エンジン取扱説明書 	1
11	グリスニップル	1

4．運転と操作
運転前の準備

始業点検

運転前には、必ず始業点検を行ってください。
点検の要領と頻度については、「定期点検表」(29 ページ) を参照してください。

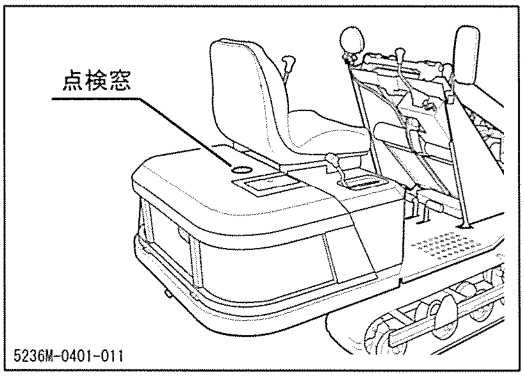
燃料の点検と補給

⚠ 警　告

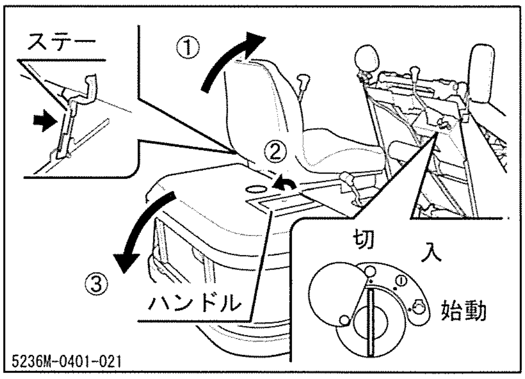
- 燃料の取り扱い時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 給油は、必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油は油面上限（油面計の「F」）以下になるようにし、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合には、すみやかに拭き取ってください。

⚠ 注　意

- エンジンカバーの開閉時に手や指などを挟まないように注意してください。

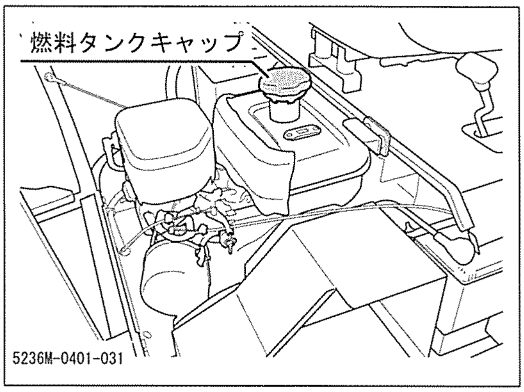


点検
1. 点検窓より油面計を目視点検し、燃料が不足している時は燃料を補給します。



補給
1. メインスイッチが ［ 切 ］であることを確認します。
2. シートを前方に倒し (①)、ステーを押してロックします。
3. ハンドルにキーを差し込み、ロックを解除してハンドルを引き (②) エンジンカバーを開け (③) ます。

４．運転と操作

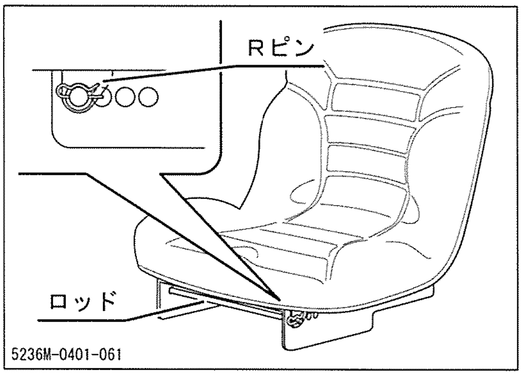


4. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
5. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。
6. エンジンカバーを閉め、シートを戻しハンドルをロックしてキーを抜きます。

【アドバイス】
・使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
・燃料タンク容量：6.8 リットル

シートの調節

⚠ 注　意
● 調節時、手や指を挟まないよう、十分注意してください。



前後の調整
1. シート取り付けロッドを固定しているRピンを外し、ロッドとワッシャを取り外します。
2. シートの取り付け位置を調節してロッドを挿入し、ワッシャとRピンで固定します。

【アドバイス】
・シート取り付け位置は４段階に調節できます。

４．運転と操作
運転のしかた

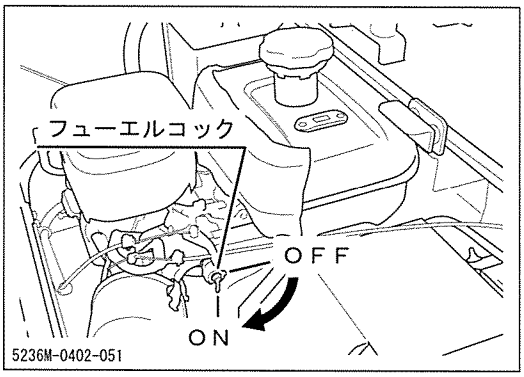
始動のしかた

⚠ 警　告

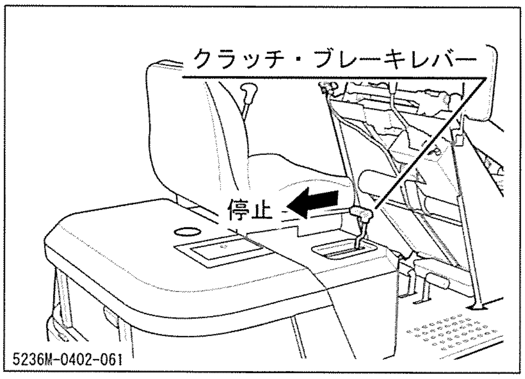
- エンジンの始動は、必ず換気の良い場所で行ってください。
- エンジンの始動は、必ず周囲の安全を確認してから行ってください。

⚠ 注　意

- エンジン回転中は、メインスイッチを［ 始動 ］に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因になります。
- ５秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合はメインスイッチを［ 切 ］に戻し、５秒以上休んでから再始動してください。
- 外気温が10℃以下の場合は十分に暖機運転を行ってください。十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンや油圧機器の寿命を短くすることになります。



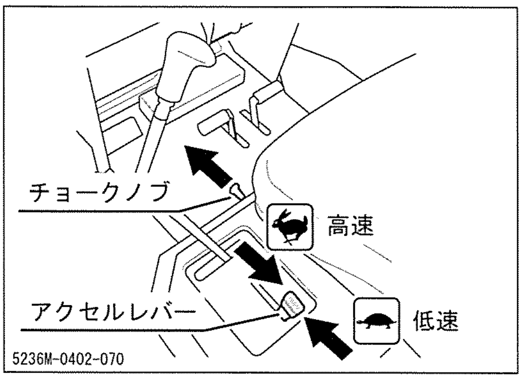
1. フューエルコックを［ ON ］にします。



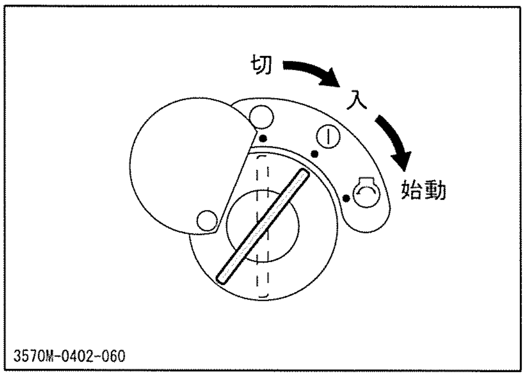
2. クラッチ・ブレーキレバーが［ 停止 ］にあることを確認します。

【アドバイス】
・本製品は始動安全装置を装備しているためクラッチ・ブレーキレバーが［ 停止 ］でないとエンジンを始動できません。

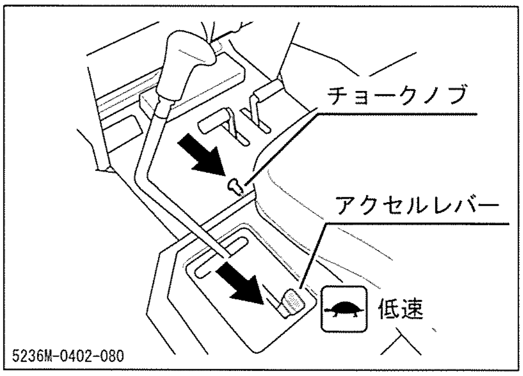
４．運転と操作



3. チョークノブを引きます。
4. アクセルレバーを［ 高速 ］と［ 低速 ］の中間位置にします。



5. メインスイッチキーを差し込みます。
6. メインスイッチを［ 始動 ］まで回し、エンジンを始動させます。始動後は、すぐにキーから手をはなしてください。キーは、自動的に［ 入 ］に戻ります。



7. アクセルレバーを［ 低速 ］に戻します。
8. チョークノブを戻します。
9. 約５分間、無負荷で暖気運転します。

【アドバイス】
・購入後、最初の４０～５０時間はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

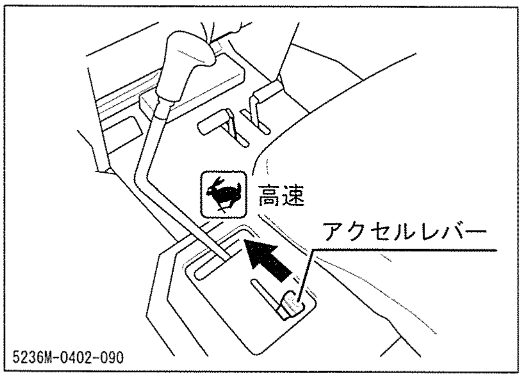
４．運転と操作

運転のしかた

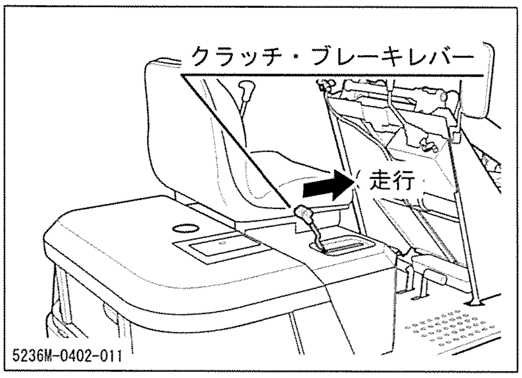
⚠ 警　告

- 運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。
- 発進前に必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。
- 旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。
- 急発進、急加速、急旋回、急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒したりするおそれがあります。
- 傾斜地では、低速で走行してください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- 斜面を横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。
- 斜面で旋回しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。
- 見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。
- 走行中にメインスイッチキーを［ 切 ］にしないでください。
- 前進ペダル・後進ペダルは同時に踏まないでください。故障の原因となります。

4．運転と操作

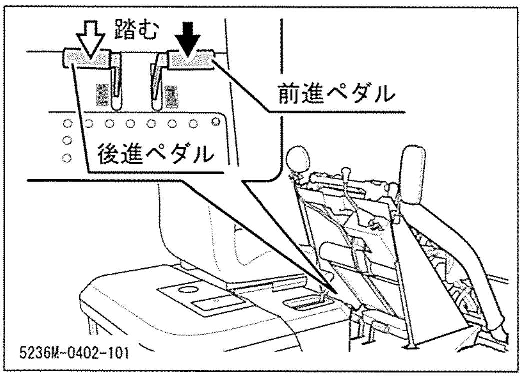


1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. アクセルレバーを[高速]にし、エンジン回転をあげます。

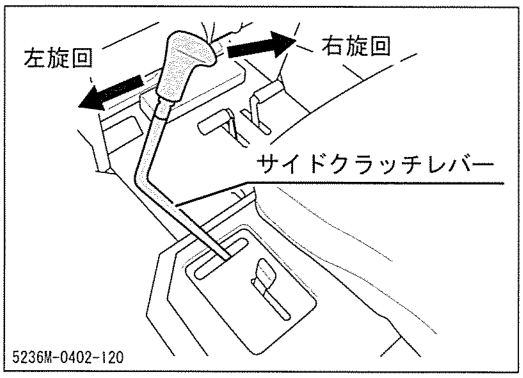


前後進する場合

3. クラッチ・ブレーキレバーを[走行]にします。



4. 前進ペダルを徐々に踏むと前進します。後進ペダルを徐々に踏むと後進します。速度は、踏み込む量により、任意に調整することができます。



旋回する場合

5. 前進ペダルまたは、後進ペダルを踏みながら旋回したい方向にサイドクラッチレバーを倒すと旋回します。右に倒すと右旋回、左に倒すと左旋回します。

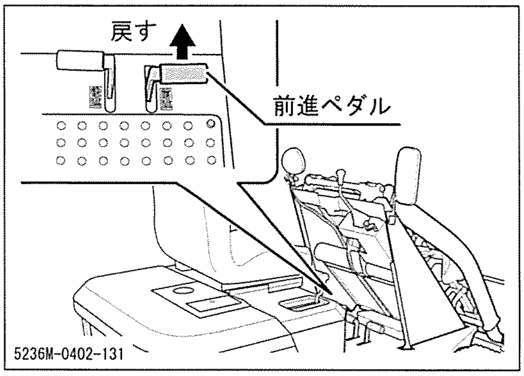
【アドバイス】
- 前進ペダル・後進ペダルは同時に踏まないでください。故障の原因になります。

4．運転と操作

停止のしかた

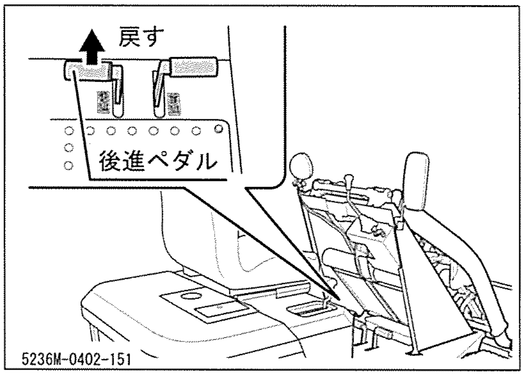
⚠ 警　告

- 急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- 停止時は、地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停止しないでください。



前進時

1. 前進時は、前進ペダルを徐々に戻し、速度を落とします。
2. 前進ペダルから足を離すと停止します。
3. クラッチ・ブレーキレバーを［ 停止 ］にします。



後進時

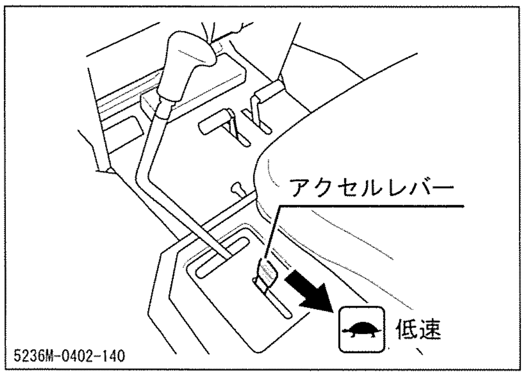
1. 後進時は、後進ペダルを徐々に戻し、速度を落とします。
2. 後進ペダルから足を離すと停止します。
3. クラッチ・ブレーキレバーを［ 停止 ］にします。

4．運転と操作

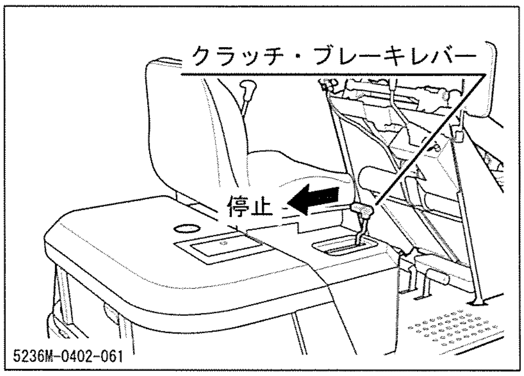
駐車のしかた

⚠ 警 告

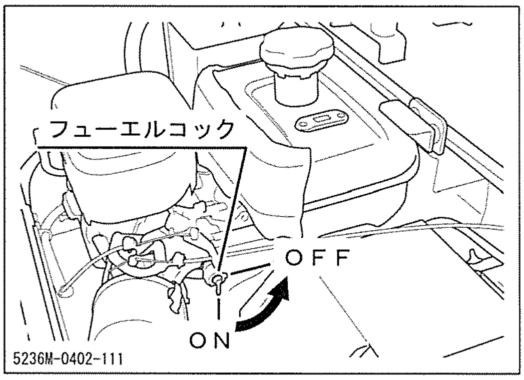
- 駐車時は、クラッチ・ブレーキレバーを[停止]にして、キーを抜き取ってください。
- 駐車時は、地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。
- 傾斜地には、駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。



1. 車両を停止します。
2. アクセルレバーを[低速]にし、エンジン回転を下げます。



3. クラッチ・ブレーキレバーを[停止]にします。
4. メインスイッチを[切] にします。
5. キーをメインスイッチから抜き取ります。



6. フューエルコックを [OFF]にします。

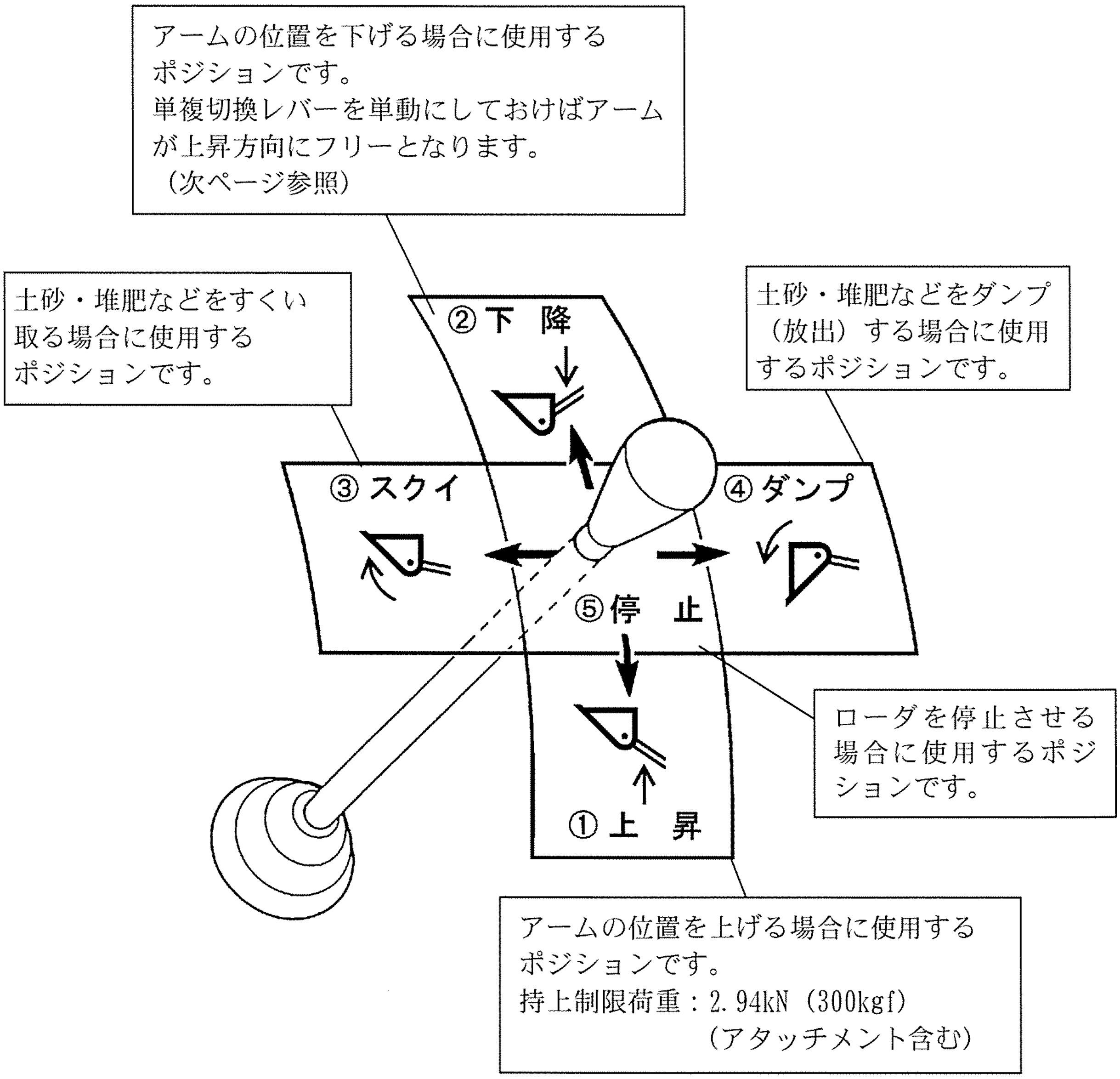
4．運転と操作

ローダ操作のしかた

運転前には、必ず始業点検を行ってください。
点検の要領と頻度については、「定期点検表」（31 ページ）を参照してください。

レバー位置とローダの動き

ローダの操作は、ローダ操作レバーで行います。
レバー１本で「上昇」「下降」「スクイ」「ダンプ」「停止（中立位置）」の５ポジションの操作ができます。



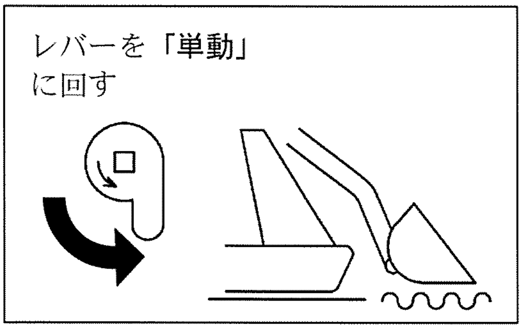
4. 運転と操作

単動・複動の切換え

リフトシリンダを単動または複動に切換えることができます。
「単動」では、操作レバーの下降操作でリフトシリンダが上昇方向にはフリーとなり、アーム先端に働く上向きの力やショックを吸収することができ、除雪作業に適しています。
「複動」では、操作レバーの下降操作で下方向に押さえる力がでますので、軽掘削・整地作業に適しています。
単動・複動は単複切換レバーで切換えます。

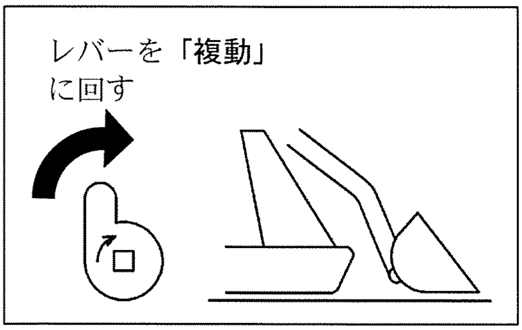
⚠ 警 告

- バケット前側が接地した状態でレバー操作を行ってください。



単動操作
1. バケットを接地させる。
2. 単複切換レバーを 180° **左**に回す。
3. 操作レバーを下降にする。

【アドバイス】
- バケットを接地させ、残圧を抜いてから操作してください。



複動操作
1. バケットを接地させる。
2. 単複切換えレバーを 180° **右**に回す。

【アドバイス】
- バケットを接地させ、残圧を抜いてから操作してください。

4．運転と操作

ストップバルブの操作

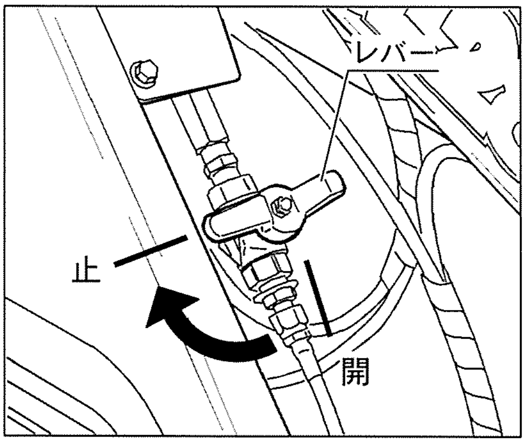
リフトシリンダへの油の流れを開閉するバルブです。
リフトアームの上昇・下降を固定させることができます。

⚠ 警　告

- 点検・整備でローダの下に入る場合、リフトアームを上げ、ストップバルブを「閉」にし、リフトアーム下を台等でささえてください。

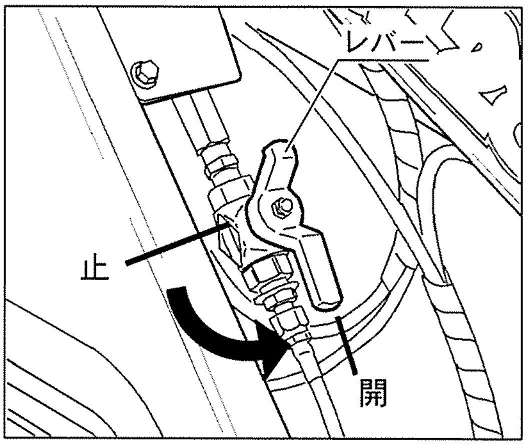
⚠ 注　意

- リフトアームの上昇・下降を固定しますが、スクイ・ダンプは固定されません。



油を止める

1. レバーを「閉」にする。90°右に回す。
2. リフトアームが固定され、操作レバーで上昇・下降操作をしても動きません。



油を流す

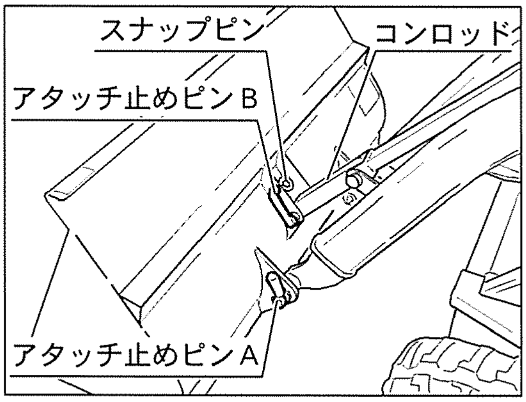
1. レバーを「開」にする。90°左に回す。
2. リフトアームが可動できるようになり、操作レバーで上昇・下降操作ができます。

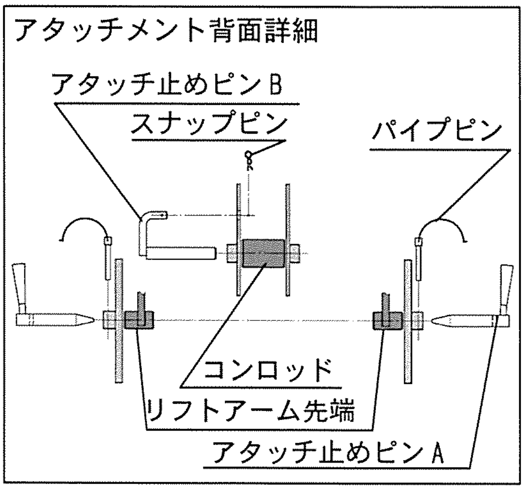
4．運転と操作

先端アタッチメント取付け・取外しのしかた

⚠ 注　意

- アタッチメントの取付け・取外しは平坦な場所で行ってください。
- アタッチメントと機械の間に立たないでください。
- 可動部分に足を入れないでください。
- クラッチ・ブレーキレバーを[停止]にしてください。





取付け

1. ローダ操作レバーを「スクイ」にして、ダンプシリンダを最伸長にする。
2. 機械を前進させてリフトアーム先端をアタッチメント背面のブラケットに挿入する。
3. ローダ操作レバーを「上昇」または「下降」に操作し、アタッチメントブラケット穴とリフトアーム先端の穴位置を合わせる。
4. 同箇所にアタッチ止めピンA（２本）を差し込み、パイプピンで固定する。
5. ローダ操作レバーを「ダンプ」に操作し、アタッチメントブラケット穴とコンロッド穴位置を合わせる。
6. 同箇所にアタッチ止めピンＢを差し込み、スナップピンで固定する。

取外し

「取付け」の手順１～６操作を逆に行ってください。

5．保守・お手入れ
定期点検表

⚠ 注　意
● 点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。 ● 付属しているエンジン取扱説明書を参照してください。

エンジンの点検

- エンジンオイルの量と汚れ
- エアクリーナの点検・清掃
- 燃料、オイル等の漏れ
- 各部ボルト緩み、破損
- 異常振動、異常音

定期点検

運転時間	作業頻度
各部の清掃および締付点検	8 時間毎（毎日）（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
エンジンオイル点検・補給	8 時間毎（毎日）（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
エアクリーナの清掃	8 時間毎（毎日）（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
エンジンオイル交換	初回 20 時間目、2 回目以降 100 時間毎
点火プラグの清掃	100 時間毎
燃料ストレーナの清掃	200 時間毎
エアクリーナエレメントの交換	200 時間毎（販売店に依頼してください）
点火プラグ間隙点検	200 時間毎（販売店に依頼してください）
吸排気弁間隙点検・調整	300 時間毎（毎日）（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
シリンダヘッドカーボン除去	500 時間毎（毎日）（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
気化器清掃	500 時間毎（毎日）（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
吸排気弁座点検すり合わせ	500 時間毎（毎日）（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
燃料ホース交換	2 年毎
オーバーホール	1000 時間毎（販売店に依頼してください）

5．保守・お手入れ
車両の点検

- 始業点検は毎日、月次点検は１ヶ月に１回、年次点検は１年に１回行ってください。
- 下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目		点検内容	点検時期			備考
			始業	月次	年次	
原動機	燃料装置	燃料タンク、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと	○	○	○	
		燃料ホースに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
		フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	
動力伝達装置	走行Ｖベルト	ベルトの張りが基準値以内であること		○	○	
		ベルトに著しい摩耗、損傷、汚れまたは油脂の付着がないこと		○	○	
	トランスミッション	走行時に異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース周辺からの油漏れがないこと	○	○	○	
	ＨＳＴ	走行時に異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		作動油タンク周辺からの油漏れがないこと	○	○	○	
	リンク類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと	○	○	○	
		連結部に緩み、ガタまたは、ワリピンの欠損がないこと	○	○	○	
走行装置	転輪 遊動輪 スプロケット	亀裂、変形および著しい摩耗がないこと	○	○	○	
		軸部にガタ、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		軸部周辺より油漏れがないこと	○	○	○	
	クローラ	激しい欠け、劣化または摩耗がないこと	○	○	○	
		緩みまたは張り過ぎがないこと	○	○	○	
		張りボルトに変形、腐食がないこと	○	○	○	

◎印の点検項目は、販売店に依頼してください。

５．保守・お手入れ

項　　目		点　検　内　容	点検時期			備　考
			始業	月次	年次	
制動装置	クラッチブレーキ	ブレーキ作動時に２０度の勾配で停止状態を保持できること		○	○	
	ロッド リンク ワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたは、ワリピンの欠損がないこと		○	○	
油圧装置	ギヤポンプ	ギヤポンプ周辺からの油漏れがないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
		ギヤポンプ作動時に異常振動、異音、発熱のないこと		○	○	
		負荷をかけたときのギヤポンプの吐出量と吐出圧がメーカーの基準値内であること ※ 上記の異常振動、異音発熱が認められない場合はこの検査を省略してもよい		○	○	
	油圧Ｖベルト	ベルトの張りが適正であること		○	○	
		ベルトに著しい摩耗、損傷、汚れまたは、油脂の付着がないこと		○	○	
	配　管	配管に亀裂、損傷、ねじれまたは、劣化がないこと		○	○	
		パイプ、ホース、接続部、シールに漏れがないこと		○	○	
		配管の取付状態が適正で、ボルトおよびナットに緩みがないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
		エアブリーザーに目詰まりがないこと		○	○	

◎印の点検項目は、販売店に依頼してください。

5．保守・お手入れ

項　　目		点　検　内　容	点検時期			備　考
			始業	月次	年次	
車体	シャーシフレーム	亀裂、変形、腐食等がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	カバー	亀裂や変形がないこと		○	○	
		開閉部が正常に開閉、ロックすること		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	ラベル	警告ラベルや指示ラベルに損傷がなく、きれいできちんと読み取れること	○	○	○	
電気装置	バッテリ	電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	
		端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
	配　線	接続部に緩みがないこと		○	○	
		配線に損傷がないこと		○	○	
	作業灯	ランプが点灯すること	○	○	○	
		ランプのレンズに欠けや亀裂がなく、内部に水の侵入がないこと		○	○	
	ホーン	ホーンが鳴ること	○	○	○	

◎印の点検項目は、販売店に依頼してください。

5．保守・お手入れ

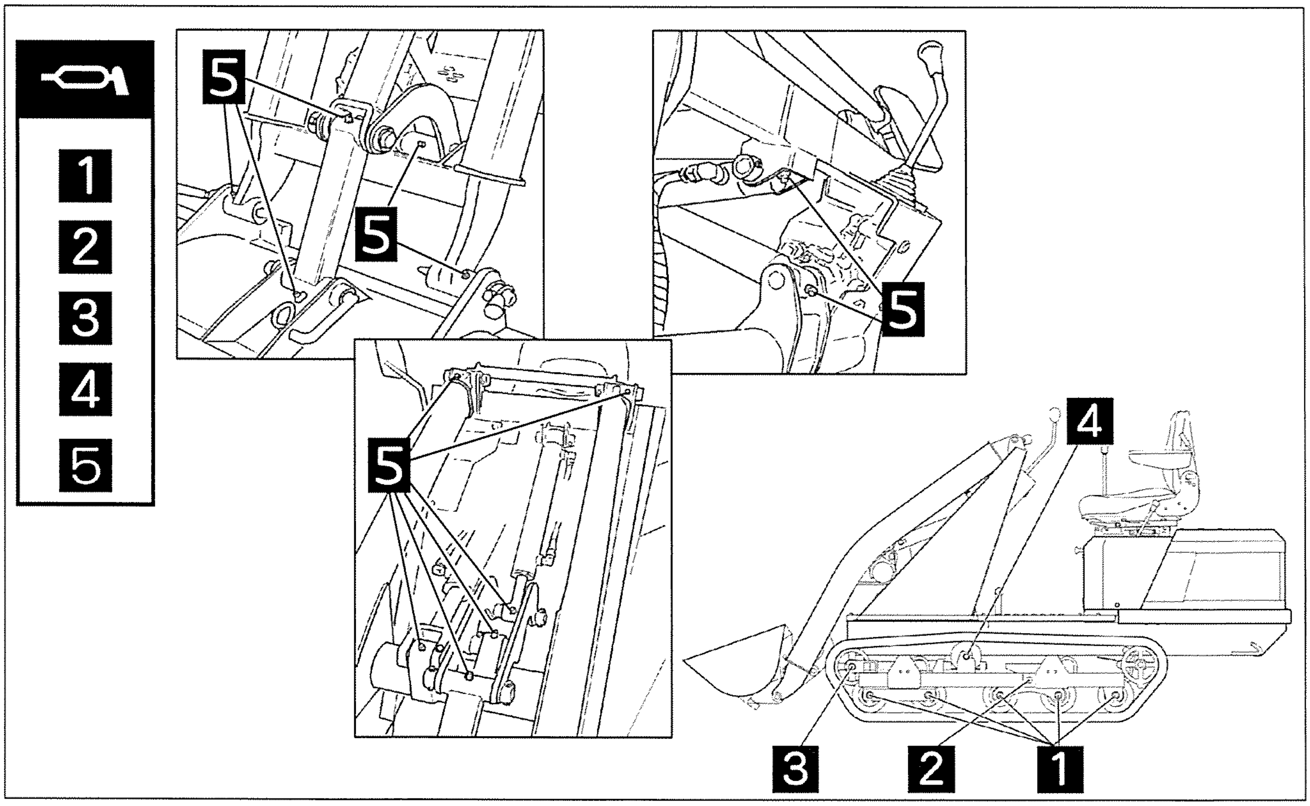
給油・給水一覧表

項　目	補給（交換）時期	推奨品	容量
燃　料	随　時	自動車用無鉛ガソリン	６．８Ｌ
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：２０時間 ２回目以降：１００時間毎	ガソリンエンジンオイル API 分類　SE 級以上 SAE 分類　10W-30（注１）	１．２Ｌ
トランスミッションオイル	交換　初回：５０時間 ２回目以降：１００時間毎	ギヤオイル API 分類　GL4 または 5 SAE 分類　#80	３．０Ｌ
油圧作動油	交換　初回：５０時間 ２回目以降：５００時間毎	高粘度指数油圧作動油 ISO　VG46	９．０Ｌ
バッテリ液	補給　５０時間毎に点検し不足時に補給	蒸留水	

（注１）マイナス１５℃以下になる地域では、ＳＡＥ分類　５Ｗ－３０をご使用ください。

給脂・注油一覧表

項　目	補給（交換）時期	推奨品	容量
給脂箇所	１～４：半年毎、５：適宜	グリス	－



【アドバイス】
- 手動式のグリースポンプを使用の場合は、５～６回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。
- エア式のグリースポンプを使用の場合は２～３秒で十分です。

5．保守・お手入れ
消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意
● 消耗部品の交換時は、必ず当社指定部品を使用してください。

項目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
エアクリーナエレメント	－	不具合あれば交換	1
点火プラグ（ＢＲ６ＨＳ）	－	５０時間毎に清掃し、不具合あれば交換	1
走行装置			
走行Ｖベルト（SB58 W800）	T3703A110-1	不具合あれば交換	2
クローラ（ノーマルパターン）	T3703A210-1	不具合あれば交換	2
クローラ（スノーパターン）	T3703A310-1	不具合あれば交換	2
ブレーキシューセット	T3703A410-1	不具合あれば交換	2
油圧装置			
油圧Ｖベルト（RCLB32）	T3703A510-1	不具合あれば交換	1
油圧ホース	－	２年毎または不具合あれば交換	4
サクションフィルタ	T3703A610-1	５００時間	1
ラインフィルタ	T3703A710-1	５００時間	1
電装品			
バッテリ（40B19R）	T3703A810-1	不具合あれば交換	1
ヒューズ　20A（黄）	T3703A910-1	不具合あれば交換	1
ヒューズ　10A（赤）	T3703B110-1	不具合あれば交換	1
作業灯バルブ（H3 12V 35W）	T3703B210-1	不具合あれば交換	1

【アドバイス】
・ ホースなどのゴム製品は使わなくとも劣化する消耗品ですので、２年毎に新品と交換してください。
・ クローラの使用限度：ラグ高さ５㎜
・ スノーパターンのクローラは、雪道専用になっています。雪道以外で使用すると著しく寿命が短くなります。

５．保守・お手入れ

エンジン

⚠ 警　告

- 点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
- エンジン停止後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。
- 燃料の取り扱い時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかにふきとってください。
- 廃油は、法令に従って適切な処理をしてください。

エンジンオイルの点検・補給・交換

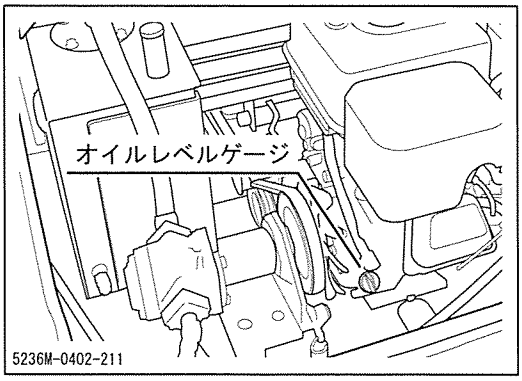
⚠ 注　意

- オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

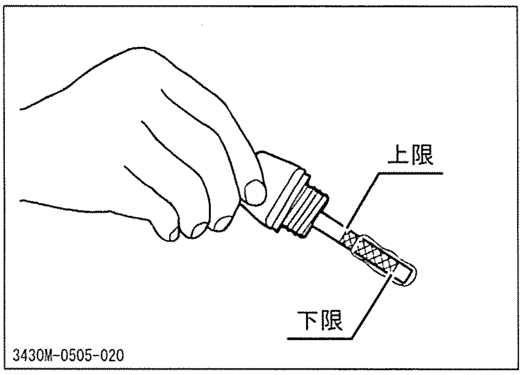
【アドバイス】

・オイル量の点検は、エンジン始動前かエンジン停止後１０分以上たってから行ってください。エンジン停止直後は、エンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。

5．保守・お手入れ

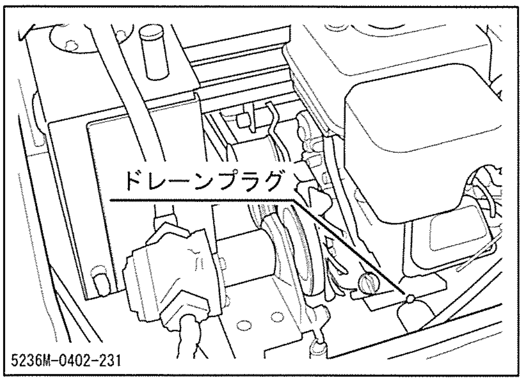


点検
1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. オイルレベルゲージを取り外し、オイルを拭き取ります。
4. オイルレベルゲージを取り付け、再び取り外します。



5. オイル量を目視点検し、オイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。下限より少ない場合は、補給します。
6. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は、交換します。
7. オイルレベルゲージを取り付けます。
8. エンジンカバーを閉めます。

補給
1. エンジンカバーを開けます。
2. オイルレベルゲージを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを規定量補給します。
4. オイル量を点検し、オイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
5. オイルレベルゲージを取り付けます。
6. エンジンカバーを閉めます。



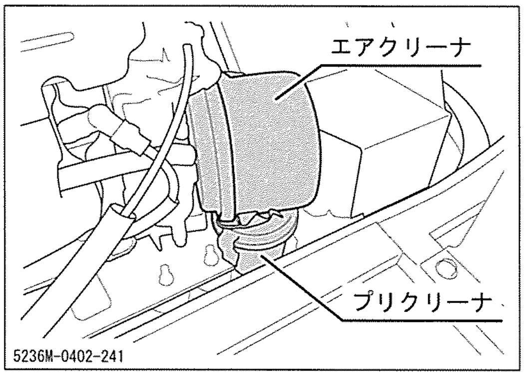
交換
1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを外し、オイルを排出します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。
4. オイルを注入します。

5．保守・お手入れ

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注　意

- エアクリーナ内のオイル量が少なかったり、エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こすため、定期的に清掃するように心がけてください。
- エレメントが破損している場合は、すぐに新品と交換してください。

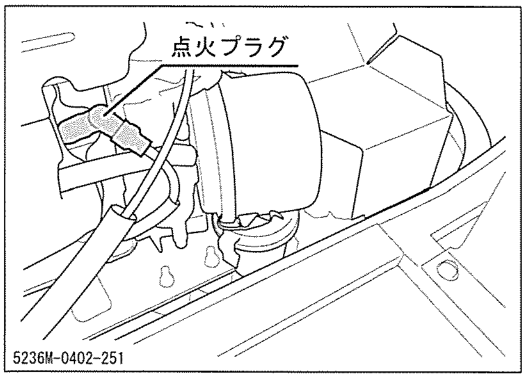


1. エンジンカバーを開けます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、エアクリーナエレメントの清掃・交換及びオイルの補充・交換を行います。
3. エンジンカバーを閉めます。

点火プラグの点検・清掃・交換

⚠ 注　意

- 点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。
- 点火プラグに破損がある場合は、すぐに新品と交換してください。

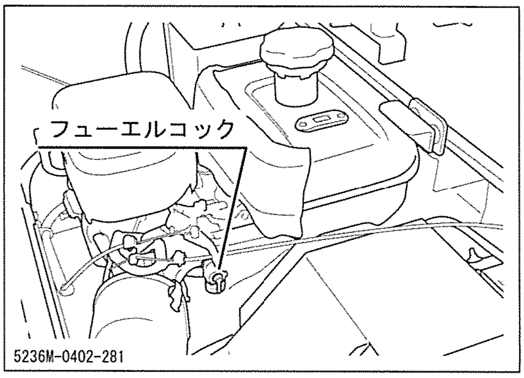


1. エンジンカバーを開けます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、点火プラグの清掃・交換を行います。
3. エンジンカバーを閉めます。

5．保守・お手入れ
フューエルコックの清掃

⚠ 警　告

- 燃料の取り扱い時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。

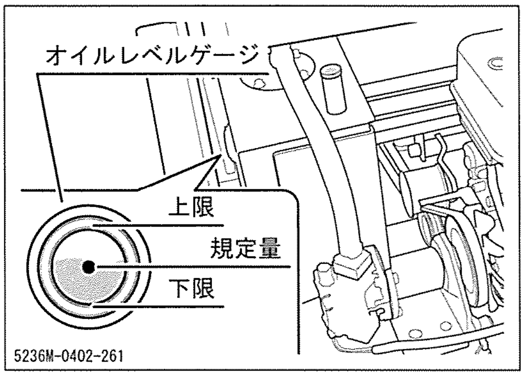


1. エンジンカバーを開きます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、フューエルコックの清掃を行います。
3. エンジン始動後取付部から燃料の漏れがないか確認します。
4. エンジンカバーを閉じます。

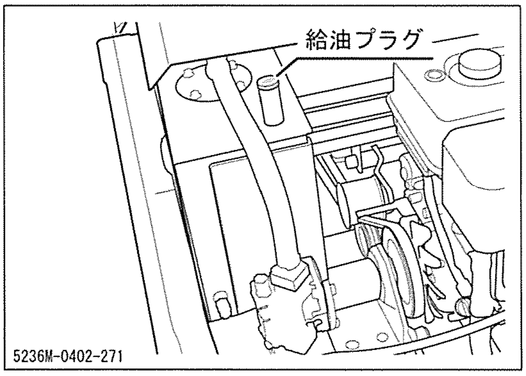
5．保守・お手入れ
油圧系統

油圧作動油の点検・補給・交換

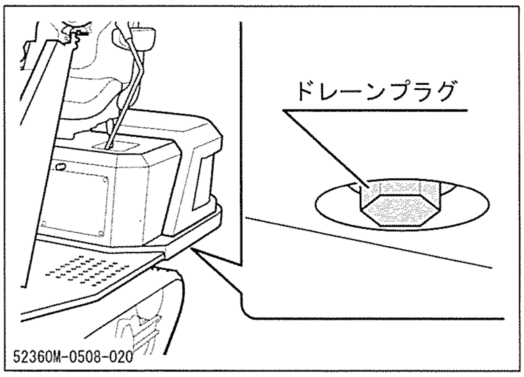
【アドバイス】
・ オイル量の点検は、エンジン始動前かＨＳＴオイルが十分冷えてから行ってください。エンジン停止直後は、正確なオイル量が点検できません。
・ 油圧作動油の交換時はラインフィルタとサクションフィルタも同時に交換してください。
・ 指定オイル、オイル量：33 ページ参照
・ 廃油は、法令に従って適切な処理をしてください。



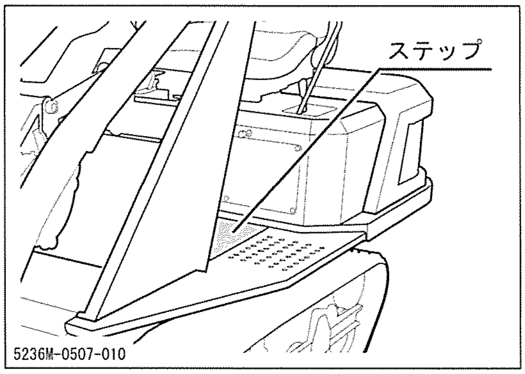
点検
1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. エンジンカバーを開けます。
3. オイルレベルゲージを目視点検し、オイルの量および汚れを確認します。
4. オイル量が上限と下限の間にあることを確認します。不足している場合は補給します。
5. オイルの汚れがひどい場合は、交換します。
6. エンジンカバーを閉めます。



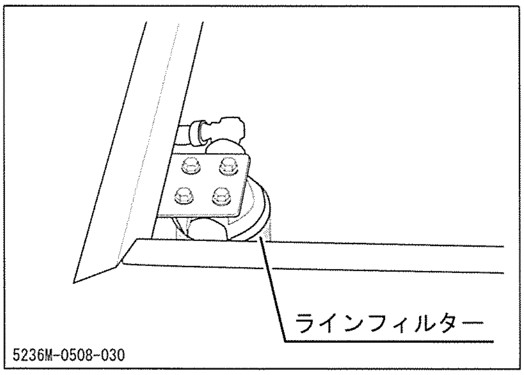
補給
1. エンジンカバーを開けます。
2. 給油プラグを取り外します。
3. 給油口より指定オイルを補給します。
4. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
5. 給油プラグを確実に取り付けます。
6. エンジンカバーを閉めます。



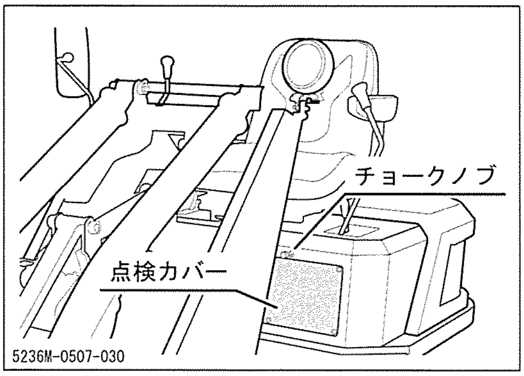
交換
1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。



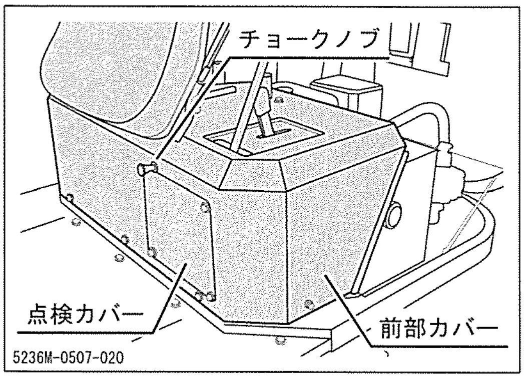
4. ステップを取り外します。



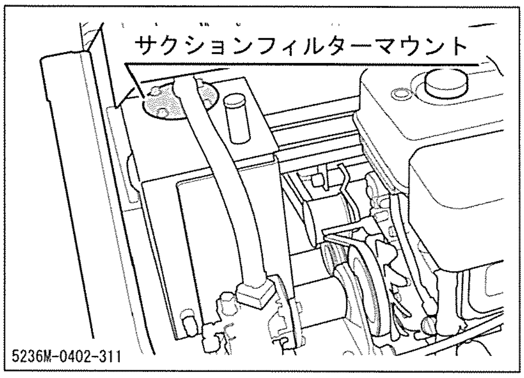
5. オイルフィルタレンチを使用し、ラインフィルタカートリッジを取り外します。
6. 新品のラインフィルタカートリッジのシール部にきれいなオイルを薄く塗布します。
7. ラインフィルタカートリッジを取り付け、手でいっぱい締め付けます。
8. ステップを取り付けます。



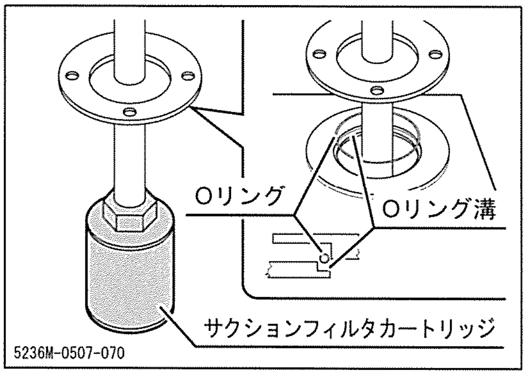
9. 点検カバーを外し、チョークノブを外します。



10. ボルト（7本）を取り外し前部カバーを取り外します。



11. ボルト（4本）を取り外しサクションフィルタマウントを取り外します。

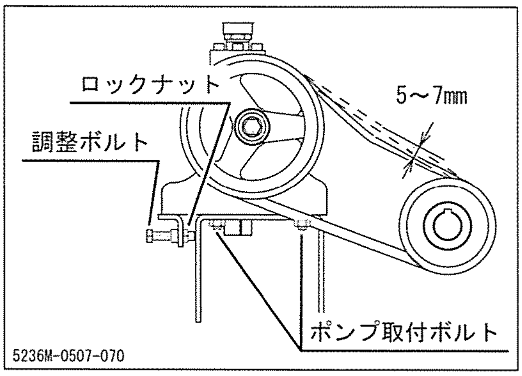


12. サクションフィルタカートリッジを交換します。
13. タンクの取り付けフランジのOリング溝にきれいなオイルを薄く塗布します。
14. Oリングを〇リング溝に入れ、こちらにも薄くオイルを塗布します。
15. Oリングが外れないように気を付けながらサクションフィルタマウントをタンクに挿入します。
16. ボルトを取り付け、サクションフィルタマウントを固定します。
17. 給油プラグをはずし給油口より、オイルを規定量注入します。
18. 給油プラグを確実に締めます。
19. エンジンを始動し、オイルを循環させます。オイル漏れがないか確認します。
20. オイル量が規定量入っていることを確認します。
21. 前部カバーを取り付け、チョークを取り付け点検カバーを取り付けます。
22. エンジンカバーを閉めます。

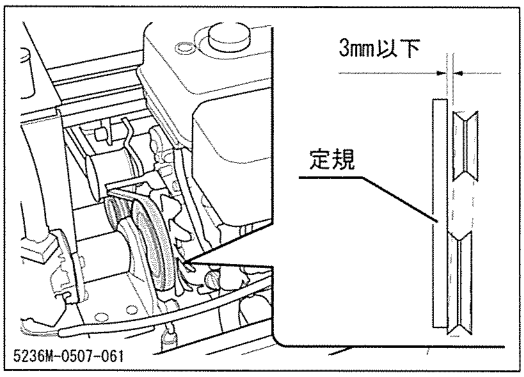
5．保守・お手入れ
油圧Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

- Ｖベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。



1. エンジンカバーを開けます。
2. Ｖベルトの張りを点検します。ベルトの中央部を指で押さえ、約５kgf の力で押さえた時のたわみ量が５～７mm程度であれば適正です。たわみが適正でない場合は調整します。ポンプ取付ボルトとロックナットを緩め、調整ボルトで張り調整を行います。調整後ロックナットをロックし、ポンプ取付ネジを締めてポンプを固定します。



3. プーリに定規等を当て、エンジンプーリとポンププーリが整列していることを確認します。
4. Ｖベルトに損傷がないかどうか点検します。損傷がある場合は、交換します。交換は、販売店へ依頼ください。
5. エンジンカバーを閉めます。

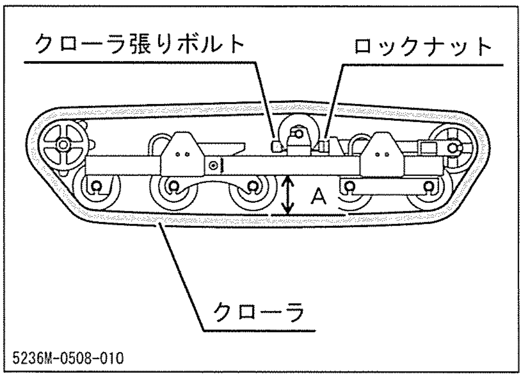
5. 保守・お手入れ
走行装置

⚠ 警　告
● 点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。 ● エンジン停止後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。 ● 燃料の取り扱い時は、火気を燃料に近づけないでください。 ● 廃油は、法令に従って適切な処置をしてください。

クローラの調整

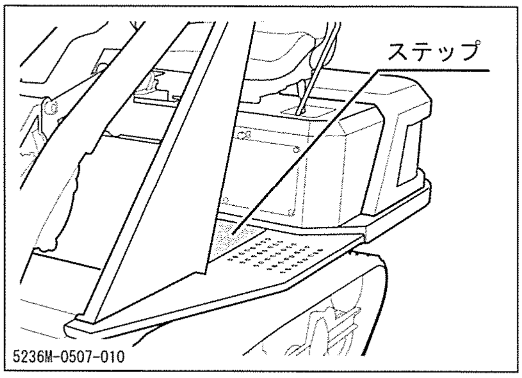
⚠ 警　告
● ジャッキアップした場合は、シャーシフレームに支持台をあて、確実に車体を保持してください。

⚠ 注　意
● クローラは、新品時の初期伸びやスプロケットとのなじみによるゆるみが発生するので、定期的な張り調整が必要です。クローラの張りが正常でないと脱輪したりクローラの寿命を著しく縮めたりするおそれがあります。 ● クローラは、重量があるので取扱には十分注意してください。

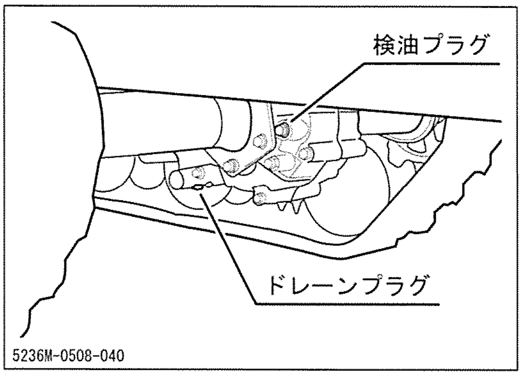


1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面と平行に浮かせます。
3. ロックナットを緩めます。
4. クローラとフレームの隙間Aが 130～140 mmになるようにクローラ張りボルトで調整します。
5. ロックナットを確実に締め付けます。
6. 車両を降ろします。

5．保守・お手入れ
トランスミッションオイルの交換

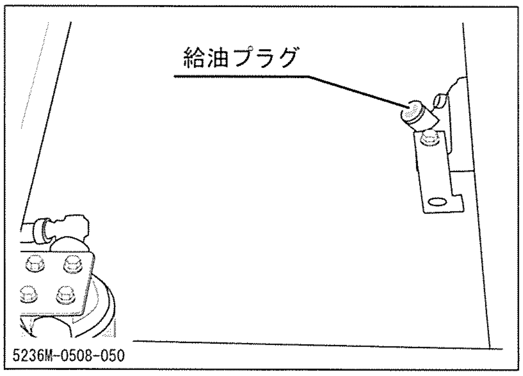


1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. ステップを取り外します
3. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。



4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。
6. 検油口より検油プラグを取り外します。

【アドバイス】
・ 給油プラグを取り外すとオイルを排出しやすくなります。



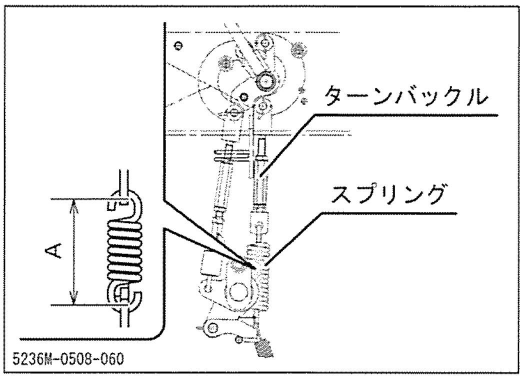
7. 給油プラグを取り外します。
8. 給油口より指定のオイルを検油口まで補給します。
9. 検油口に検油プラグを取り付けます。
10. 給油プラグを取り付けます。
11. ステップを取り付けます。

【アドバイス】
・指定オイル、オイル量：33 ページ

5. 保守・お手入れ
走行Vベルトの点検・調整

⚠ 注　意

- ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。

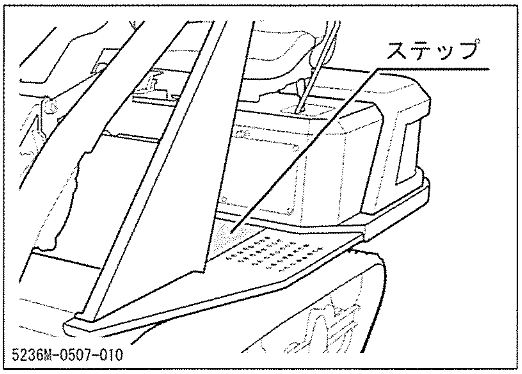


1. エンジンカバーを開けます。
2. クラッチ・ブレーキレバーを［ 走行 ］にします。
3. Vベルトの張りを点検します。スプリングのフック内寸Aが110～112㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合は、ターンバックルで調整します。
4. Vベルトに損傷がないかどうか点検します。損傷がある場合は、交換します。交換は、販売店へ依頼ください。
5. クラッチ・ブレーキレバーを［ 停止 ］にします。
6. エンジンカバーを閉めます。

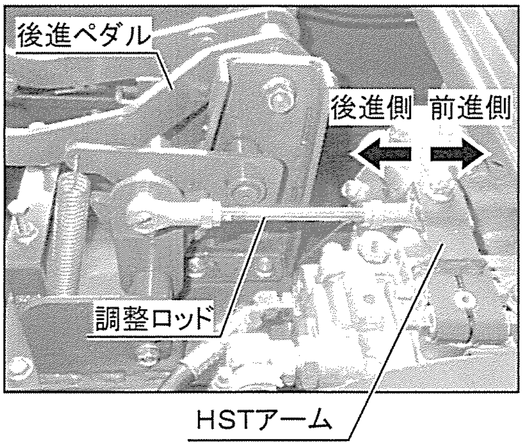
5．保守・お手入れ
ＨＳＴの中立調整

⚠ 注　意

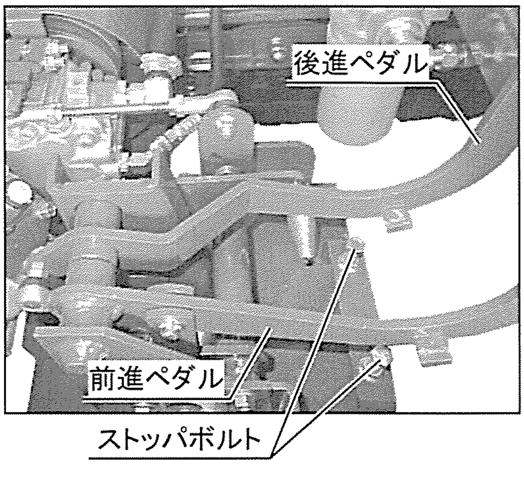
- ＨＳＴの中立調整ができていないと前進・後進ペダルから足をはなしても車両が前後進しつづけ、事故につながるおそれがあります。
- 使用中の車両では、クローラの張り具合、調整ロッドのリンクボール、中立用のバネ等の経年劣化も考えられ、ロッドの調整では中立がとれない場合もあります。その際は、部品交換などの必要があります。



1. ステップを取りはずす。



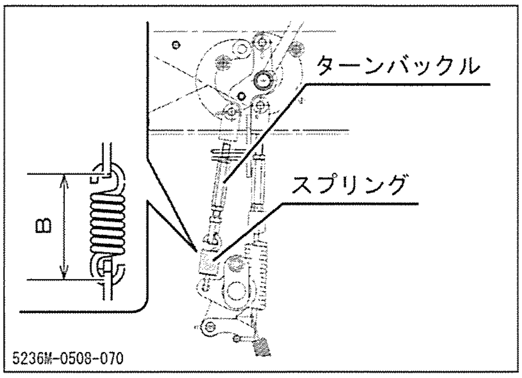
2. 調整ロッドの両側のロックナットをゆるめる。
3. 調整ロッドをまわし、ＨＳＴアームの角度を変更し、中立を調整する。
   ■中立で前進する→　調整ロッドを短くする
   （後進側へＨＳＴアームの角度を変える）
   ■中立で後進する→　調整ロッドを長くする
   （前進側へＨＳＴアームの角度を変える）
4. 2. でゆるめた調整ロッドのロックナットを仮締めする。
5. エンジンを始動し、前進・後進ペダルを踏んでいない中立状態で車両が動かないことを確認する。
6. エンジンを停止する。
7. 調整ロッドのロックナットを本締めする。
8. ストッパボルトのロックナットをゆるめる。（2箇所）
9. 前進・後進ペダルをそれぞれ踏み込んだ位置で、ストッパボルトが当たるよう高さを調整する。
10. 踏み込んだ前進ペダルをはなす。
11. ストッパボルトを左回りに１回転戻す。（ストッパ位置が高くなる方向へ）
12. ストッパボルトのロックナットを元通り締めこむ。
13. 1. ではずしたステップを元通り組付ける。



5．保守・お手入れ
駐車ブレーキの点検・調整

⚠ 注　意

- ブレーキの効きが悪くなった場合は、すぐに点検・調整をしてください。



1. エンジンカバーを開けます。
2. クラッチ・ブレーキレバーを［ 停止 ］にします。
3. スプリングのフック内寸Bが64～66 mmの範囲にあるか点検します。適正でない場合は、ターンバックルで調整します。
4. エンジンカバーを閉めます。

５．保守・お手入れ
電装品

⚠ 警　告
● 作業時は、必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

バッテリ液の点検・補給・充電

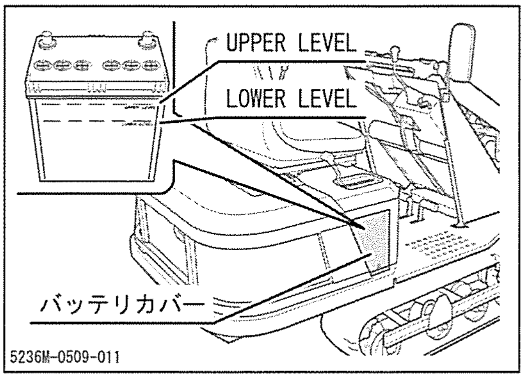
⚠ 警　告

- バッテリ液量が「ＬＯＷＥＲ　ＬＥＶＥＬ」以下になったままで使用または充電をしないでください。バッテリの寿命を著しく縮めます。また、バッテリが爆発するおそれがあります。
- バッテリ液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- バッテリに火気を近づけなでください。
- バッテリの充電は車両から取り外して行ってください。
- バッテリの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

⚠ 注　意

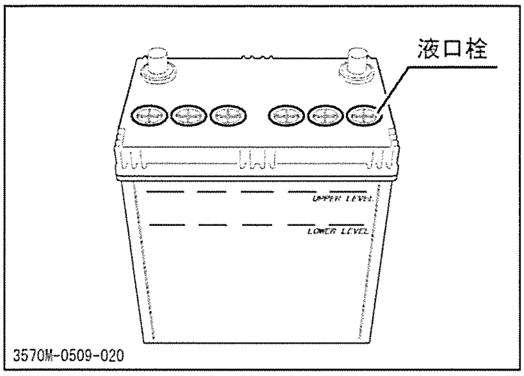
- バッテリ液を補給する時は、バッテリ液量が「ＵＰＰＥＲ　ＬＥＶＥＬ」以上になるまで補給をしないでください。バッテリ液がもれて塗装面を傷つけたり、部品を腐食させたりするおそれがあります。
- バッテリを充電する時は、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。
- バッテリ端子をバッテリに取り付ける時は（＋）と（－）を間違えないでください。また、端子は、しっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。

5．保守・お手入れ



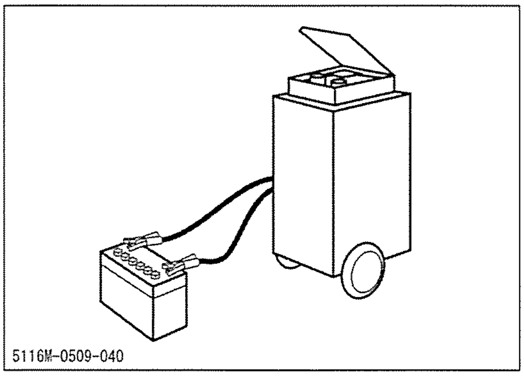
点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. バッテリカバーを固定しているボルトを外し、バッテリカバーを取り外します。
3. バッテリ液量を目視点検します。
4. バッテリ液量が「UPPER LEVEL」（以下 U.L）と「LOWER LEVEL」（以下 L.L）の間にあることを確認します。バッテリ液量が[L.L]に近い場合は、補給します。
5. バッテリカバーを取り付けます。



補給

1. エンジンカバーを開けます。
2. 液口栓を取り外します。
3. 蒸留水を「U.L」まで補給します。
4. 液口栓を取り付けます。
5. エンジンカバーを閉めます。

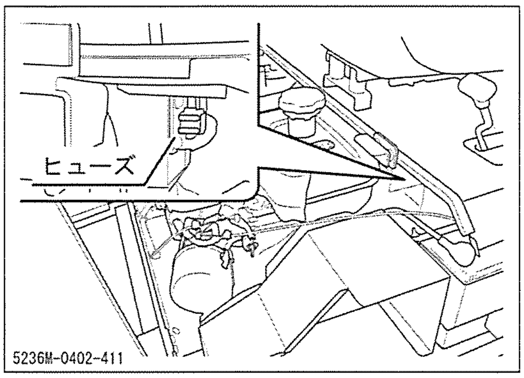


充電

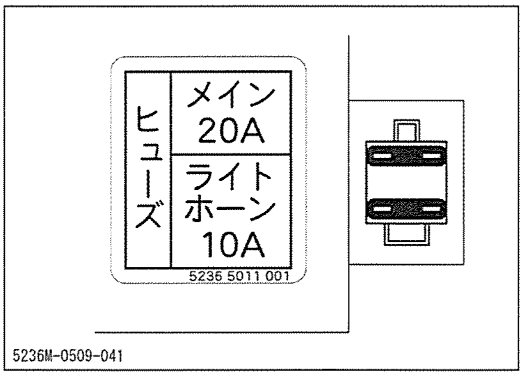
1. エンジンカバーを開けます。
2. バッテリの（－）端子を取り外します。
3. バッテリの（＋）端子を取り外します。
4. バッテリを取り外します。
5. 充電器の取扱説明書に従い、バッテリを充電します。
6. 充電が終了したらバッテリを車両に取り付けます。バッテリ端子がバッテリに確実に固定されていることを確認します。
7. エンジンカバーを閉めます。

ヒューズの点検・交換

⚠ 注　意
● ヒューズが切れている時は、原因を調査し、修理をしてから交換してください。 ● ヒューズは指定容量のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。



1. エンジンカバーを開けます。
2. ヒューズを取り外し、ヒューズが切れていないかをチェックします。切れている場合には、交換します。
3. ヒューズを取り付けます。
4. エンジンカバーを閉めます。



５．保守・お手入れ
使用後のお手入れ

⚠ 注　意

- エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の侵入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- 付着物は、凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- 凍結して運転不能になった場合は、無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分に冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した泥や雪などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

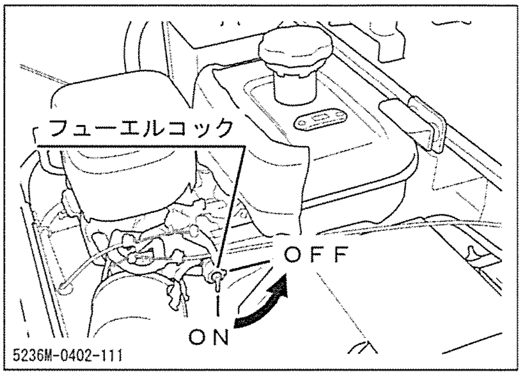
5．保守・お手入れ
長期保管のしかた

⚠ 警　告

- 火気のある場所に格納しないでください。

⚠ 注　意

- エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の侵入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- 付着物は凍結して故障の原因になります。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に格納しないでください。



1. 車両を駐車します。
2. 車両に付着した草や泥、雪などの異物を取り除きます。
3. エンジンオイルを交換します。
4. エアクリーナエレメントを清掃します。
5. エンジンカバーを開け、フューエルコックを［ＯＦＦ］にします。
6. 車両からバッテリを取り外し、バッテリ液の点検・補給を行います。
7. エンジンカバーを閉めます。
8. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

【アドバイス】
- バッテリは、使用しなくても放電してしまいます。約３ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリを長持ちさせることができます。
- エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。
- エンジンを始動するときは、フューエルコックを［ＯＮ］にすることを忘れないでください。

6．不具合発生時の処置
不具合診断表

・ 不具合と考えられる現象が起きた場合は直ちに本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、弊社代理店へご相談ください。
・ 下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の機材が必要なものが含まれています。その場合は弊社代理店へお問い合わせください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	クラッチブレーキが[走行]になっていて安全装置が働いている	→ クラッチブレーキを[停止]にする	19 ページ
		バッテリあがり	→ バッテリ液を補給する → バッテリを充電する → バッテリを交換する	48 ページ
		バッテリケーブルの外れ	→ バッテリケーブルを接続する	48 ページ
		ヒューズ切れ	→ 交換する	50 ページ
		燃料切れ	→ 補給する	17 ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→ 時間をおいて始動する	
		フューエルコックが[OFF]になっている	→ [ON]にする	19 ページ
		エンジンオイルの不足または品質不良	→ 補給または交換する	36 ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→ 清掃または交換する	37 ページ
		その他（上記以外）	→ 販売店へお問合せください	
	すぐにエンストする	燃料切れ	→ 補給する	17 ページ
		暖機運転の不足	→ 十分暖機する	
		その他（上記以外）	→ 販売店へお問合せください	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→ 補給する	17 ページ
		その他（上記以外）	→ 販売店へお問合せください	
	エンジンが停止しない		→ フューエルコックを[OFF]にして販売店へお問合せください	

6．不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	吸入空気量不足（エアクリーナの目詰まり）	→清掃または交換する	37ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問合せください	
	出力または加速不良	燃料不良	→燃料を交換する	
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	33ページ
		吸入空気量不足（エアクリーナの目詰まり）	→清掃または交換する	
		過積載	→積荷を減らす	
		走行Vベルトの緩み	→調整する	47ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問合せください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問合せください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問合せください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	35ページ
		冷却ファンの目詰まり	→清掃する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問合せください	
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	37ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問合せください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→燃料を交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	37ページ
		チョークノブが完全に戻っていない	→チョークノブを戻す	
		その他（上記以外）	→販売店へお問合せください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	エンジンオイルが入り過ぎている	→オイル量を調整する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問合せください	

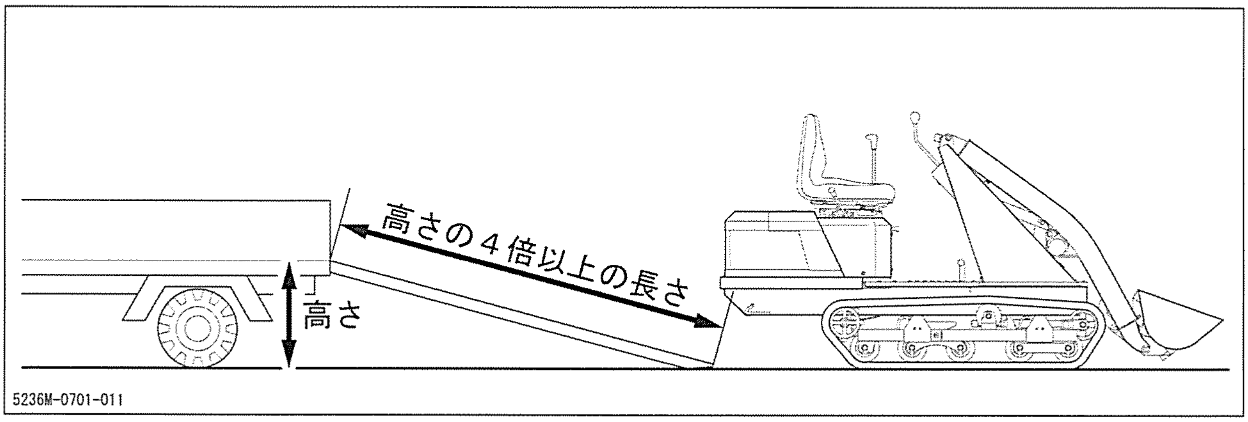
6．不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
走行装置関連	前後進ペダルを踏んでも車両が動かない	クラッチブレーキが[停止]になっている	→ クラッチブレーキを[走行]にする	22 ページ
		過積載	→ 積荷を減らす	
		作動油の不足または劣化	→ 補給または交換する	39 ページ
		その他（上記以外）	→ 販売店へお問合せください	
	クローラが円滑に回転しない	調整不良	→ 調整する	43 ページ
		その他（上記以外）	→ 販売店へお問合せください	
	クローラ周りの異音または異常振動		→ 販売店へお問合せください	
	ブレーキの効きが悪い	調整不良	→ 調整する	47 ページ
		その他（上記以外）	→ 販売店へお問合せください	
安全装置関連	ランプの点灯不良	球切れ	→ 交換する	
		ヒューズ切れ	→ 交換する	50 ページ
		その他（上記以外）	→ 販売店へお問合せください	
	ホーンの作動不良	ヒューズ切れ	→ 交換する	50 ページ
油圧装置関連	油圧装置の作動不良（動きがぎくしゃくする）（動きが遅い）（途中で止まる）（異音がする）	作動油の不足または劣化	→ 補給または交換する	39 ページ
		油圧 V ベルトの緩み	→ 調整する	42 ページ
		フィルタの詰まり	→ 交換する	40 ページ
		その他（上記以外）	→ 販売店へお問合せください	
	ローダを動かすと音がする	グリスが切れている	→ 給脂する	33 ページ
	バルブ・シリンダからの油漏れ	パッキンの摩耗・劣化	→ 販売店へお問合せください	
	継手・ホースからの油漏れ	配管部ネジのゆるみ	→ 締めなおしてください	
		シールの損傷・劣化	→ 販売店へお問合せください	

7．本製品の移送
トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

- トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。
- 作業中は車両およびトラックの周辺には人を近づけないでください。
- アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- 後進でゆっくりと積み、前進でゆっくりと降ろしてください。
- アユミ板の上で旋回を行わないでください。
- 輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。
- 積み降ろし作業中は、アタッチメント（バケット・ツメ等）がアユミ板に接触しないように十分注意してください。輸送中はアタッチメント（バケット・ツメ等）は、降ろしてください。



1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 地面やアユミ板に当たらない程度にアタッチメントを上げ、後進でゆっくりと積み込みます。
4. 「駐車のしかた」（24 ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を確実に固定します。

7．本製品の移送

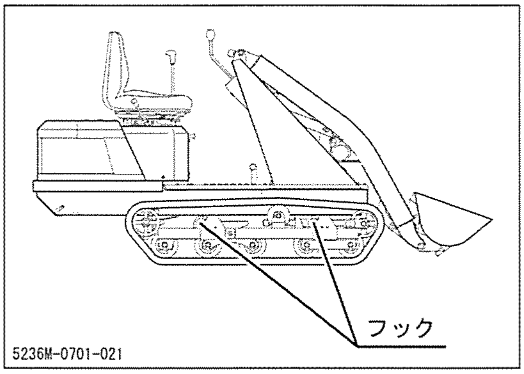
クレーン等による吊り上げ要領

⚠ 警　告

- クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。
- 十分な強度を持った玉掛用スリングを使用してください。複数使用する場合は必ず同じ長さのものを使用してください。
- 吊り上げ作業は、必ず空車状態で行ってください。

⚠ 注　意

- ワイヤーロープで吊り上げないでください。クローラを傷めます。



1. フック（4ヶ所）に玉掛用スリングを掛け、車両を吊り上げます。

お客様メモ

購入日：平成　　年　　月　　日	
購入店名：	

ISO9001
JQA-QM4853
本社·宝塚事業所

製造元 三陽機器株式会社

本社·工場 研究所	〒719-0392	岡山県浅口郡里庄町新庄3858	TEL. 0865-64-2871	FAX. 0865-64-2874
			ホームページ http://www.sanyokiki.co.jp/	
宝塚事業所	〒665-0825	兵庫県宝塚市安倉西4丁目2-25	TEL. 0797-83-0012	FAX. 0797-83-0312
東北センター	〒984-0002	仙台市若林区卸町東1丁目9番23号	TEL. 022-236-8581	FAX. 022-239-7291

三陽サービス株式会社

本社	〒719-0392	岡山県浅口郡里庄町新庄3858	TEL. 0865-64-4301	FAX. 0865-64-2874
札幌営業所	〒007-0806	札幌市東区東苗穂6条2丁目14-20号	TEL. 011-781-8777	FAX. 011-781-9742
仙台営業所	〒984-0002	仙台市若林区卸町東1丁目9番23号	TEL. 022-236-8581	FAX. 022-239-7291
関東営業所	〒323-0827	栃木県小山市大字神鳥谷222-1	TEL. 0285-22-2901	FAX. 0285-23-1549
大阪·岡山営業所	〒719-0392	岡山県浅口郡里庄町新庄3858	TEL. 0865-64-4301	FAX. 0865-64-2874
熊本営業所	〒861-3106	熊本県上益城郡嘉島町上島2500-3	TEL. 096-237-2007	FAX. 096-237-2029